

科目一覧（学則第21条の別表1）

■クリエイター科 共通科目							570
Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【森林・材料系】						195
C1- 1	森林から木材、暮らしへ1	必須	柳澤直	担当教員	講義	1年前期	75
C1- 2	森林文化論	必須	川尻秀樹	非常勤講師	講義	1・2年通年	30
C1- 3	樹木同定実習	必須	柳澤直	津田裕 / 玉木一郎	実習	1年前期	30
C1- 4	林業・林産業体験実習	必須	原島幹典	杉本和也 / 吉野安里	実習	1年通年	30
C1- 5	木材の種類と材質	必須	松井勲尚	久津輪雅 / 和田賢治 / 吉野安里 / 辻充孝 / 廣田桂子	講義・実習	1年前期	30
	【情報・ビジネス系】						90
C1- 6	文章表現・作文技術	選択	玉木一郎		講義・実習	1年後期	30
C1- 7	情報発信演習	必須	辻充孝	久津輪雅 / 和田賢治	講義・実習	1年後期	30
C1- 8	コミュニティビジネス起業論(基礎編)	必須	嵯峨創平	杉本和也 / 非常勤講師	講義	1年後期	30
	【人間力・現場力系】						75
C1- 9	アウトドア・チームビルディング	必須	萩原裕作	川尻秀樹 / 非常勤講師	実習	1年前期	15
C1- 10	山里に聞く	選択	原島幹典	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	1年前期	30
C1- 11	地域活性化概論	必須	客員教授	非常勤講師	講義	1年通年	30
	【プロジェクト系】						210
C1- 12	コロキウム	必須	柳澤直	担当講座	講義	1・2年通年	60
C1- 13	インターンシップ	選択	科長	指導教員	実習	1・2年通年	60
C1- 14	プロジェクト	選択	柳澤直	担当教員	実習	1・2年通年	90

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【林業経営】						195
C1- 15	林業の再生	選択	横井秀一		講義	1年前期	30
C1- 16	市場経済の中の林業	選択	杉本和也	非常勤講師	講義	1年前期	15
C1- 17	森林政策・森林計画	選択	池戸秀隆		講義	1年後期	30
C1- 18	森林情報	選択	川尻秀樹	非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
C1- 19	原木流通	選択	吉野安里	非常勤講師	講義	1年前期	30
C1- 20	木質バイオマス資源とその利用	選択	杉本和也	辻充孝 / 非常勤講師	講義	1年後期	30
C1- 21	技術開発動向調査	選択	横井秀一	川尻秀樹 / 杉本和也 / 池戸秀隆	講義・実習	1年通年	30
	【森林管理】						300
C1- 22	樹木学実習	選択	横井秀一		実習	1年通年	30
C1- 23	樹木生理学	選択	玉木一郎		講義	1年前期	30
C1- 24	森を知る	選択	横井秀一		実習	1年通年	30
C1- 25	森林生態	選択	柳澤直		講義・実習	1年前期	30
C1- 26	森林立地	選択	柳澤直		講義・実習	1年後期	30
C1- 27	造林の基礎	選択	横井秀一		講義	1年前期	45
C1- 28	多様な森林施策	選択	横井秀一		講義	1年前期	45
C1- 29	森林調査法	選択	津田格	柳澤直 / 玉木一郎 / 横井秀一	実習	1年通年	60
	【森林利用】						300
C1- 30	木材生産システムの基礎	選択	杉本和也	非常勤講師	講義	1年後期	30
C1- 31	林道と作業道	選択	杉本和也	非常勤講師	講義	1年後期	30
C1- 32	安全管理の推進	選択	杉本和也		講義	1年前期	30
C1- 33	チェーンソー・刈払い機入門	選択	原島幹典	杉本和也 / 川尻秀樹 / 横井秀一 / 池戸秀隆	講義・実習	1年前期	30
C1- 34	チェーンソー・刈払い機操作実習	選択	川尻秀樹	杉本和也 / 原島幹典 / 横井秀一 / 池戸秀隆	実習	1年前期	60
C1- 35	林業架線	選択	池戸秀隆	非常勤講師 / 川尻秀樹 / 杉本和也	講義・実習	1年通年	120
	【関連科目】						195
C1- 36	救急法講習	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年前期	15
C1- 37	哺乳類・鳥類	選択	柳澤直	非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
C1- 38	動物同定実習	選択	玉木一郎	津田格 / 萩原裕作	実習	1年前期	30
C1- 39	野生動物管理概論	選択	川尻秀樹	原島幹典 / 非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
C1- 40	クレーン・玉掛け技能	選択	川尻秀樹		講義・実習	1年後期	45
C1- 41	林業再生課題研究ゼミ	選択	横井秀一	川尻秀樹 / 杉本和也 / 池戸秀隆	実習	1年通年	15
C1- 42	コミュニケーション・ワークショップ	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年通年	30

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【山村地域の基本的理解、理念】						105
C1- 43	地域調査法演習	選択	柳澤直	嵯峨創平	実習	1年前期	30
C1- 44	山里に伝える～聞き書き～	選択	原島幹典	廣田桂子 /非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
C1- 45	里山を考える	選択	柳澤直	津田格 /玉木一郎	講義	1・2年通年	30
C1- 46	山村づくりゼミ 1	選択	原島幹典	嵯峨創平 /柳澤直 /津田格 /玉木一郎	講義・実習	1年通年	15
	【山村生活の実践】						60
C1- 47	地域生活実習 1 (基礎)	選択	原島幹典	非常勤講師	実習	1年通年	60
	【生物・生態学の基礎】						60
C1- 48	動物同定実習	選択	玉木一郎	津田格 /萩原裕作	実習	1年前期	30
C1- 49	樹木生理学	選択	玉木一郎		講義	1年前期	30
	【山村の自然生態、環境、資源的理解】						210
C1- 50	森林調査法	選択	津田格	柳澤直 /玉木一郎 /横井秀一	実習	1年通年	60
C1- 51	森林生態	選択	柳沢直		講義・実習	1年前期	30
C1- 52	森林立地	選択	柳澤直		講義・実習	1年後期	30
C1- 53	哺乳類・鳥類	選択	柳澤直	非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
C1- 54	林産物実習(秋冬編)	選択	津田格		実習	1年後期	30
C1- 55	エコミュージアム概論	選択	嵯峨創平		講義・実習	1年通年	30
	【山村づくりに必要な知識・技術・理念】						180
C1- 56	ファシリテーション入門	選択	嵯峨創平	非常勤講師	実習	1年前期	30
C1- 57	チェンソー・刈払い機入門	選択	原島幹典	杉本和也 /川尻秀樹 /横井秀一 /池戸秀隆	講義・実習	1年前期	30
C1- 58	都市農山村交流実習 1	選択	原島幹典		講義・実習	1年通年	30
C1- 59	山村活性化事例研究 1	選択	嵯峨創平	非常勤講師	講義・実習	1年通年	30
C1- 60	地域計画法演習	選択	嵯峨創平	柳澤直	講義・実習	1年後期	30
C1- 61	パーマカルチャー実習 1 (基礎編)	選択	萩原裕作	廣田桂子 /非常勤講師	講義・実習	1年通年	30
	【地域における課題への取り組み】						150
C1- 62	野生動物管理概論	選択	川尻秀樹	原島幹典 /非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
C1- 63	里山プロジェクト実習	選択	柳澤直	津田格 /玉木一郎	実習	1年後期・2年前期	60
C1- 64	地域プロジェクト実習	選択	原島幹典		実習	1・2年通年	60
	【関連科目】						45
C1- 65	救急法講習	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年前期	15
C1- 66	コミュニケーション・ワークショップ	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年通年	30

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【みる】						180
C1- 67	フィールドワーク1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	60
C1- 68	自然学校・ビジターセンター1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	60
C1- 69	環境教育施設組織経営論1(基礎編)	選択	萩原裕作	非常勤講師	講義・実習	1年通年	30
C1- 70	動物同定実習	選択	玉木一郎	津田裕 / 萩原裕作	実習	1年前期	30
	【体験する】						90
C1- 71	自然体験実習	選択	萩原裕作		実習	1年通年	30
C1- 72	自然体験プログラム実習1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	60
	【伝える】						180
C1- 73	インタープリテーション実習1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	60
C1- 74	自然体験活動指導実習1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	120
	【考える】						30
C1- 75	IPコースゼミ1(基礎編)	選択	萩原裕作		講義	1年通年	30
	【企画する】						120
C1- 76	プログラムデザイン1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	120
	【総合技術】						150
C1- 77	バーマカルチャー実習1(基礎編)	選択	萩原裕作	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	1年通年	30
C1- 78	森のようちえん実習1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	60
C1- 79	プレーパーク実習1(基礎編)	選択	萩原裕作		実習	1年通年	60
	【関連科目】						45
C1- 80	救急法講習	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年前期	15
C1- 81	コミュニケーション・ワークショップ	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年通年	30

■木造建築講座科目

1,050

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【計画系】						150
C1- 82	木造建築計画の基礎	選択	廣田桂子	非常勤講師	実習	1年通年	60
C1- 83	木造建築の計画演習	選択	辻充孝		講義・実習	1年前期	30
C1- 84	木造建築の設計監理法	選択	辻充孝		講義	1年後期	30
C1- 85	バーマカルチャー実習1(基礎編)	選択	萩原裕作	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	1年通年	30
	【木造建築病理学系】						120
C1- 86	木造建築病理学	選択	小原勝彦	吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 / 津田格 / 非常勤講師	講義	1・2年通年	60
C1- 87	木造建築病理学実習	選択	小原勝彦	吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 / 津田格	実習	1・2年通年	60
	【構造系】						60
C1- 88	木質構造力学・静定構造	選択	小原勝彦		講義・実習	1年前期	30
C1- 89	木質構造力学・不静定構造	選択	小原勝彦		講義・実習	1年後期	30
	【構法系】						60
C1- 90	建築構法	選択	小原勝彦		講義・実習	1年前期	30
C1- 91	木造建築の防火性能	選択	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	30
	【環境系】						105
C1- 92	木材塗装の基礎	選択	久津輪雅	辻充孝 / 非常勤講師	講義・実習	1年通年	45
C1- 93	木造建築環境	選択	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	1年前期	30
C1- 94	木の空間における人間工学	選択	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
	【設計系】						75
C1- 95	木造建築CAD	選択	辻充孝		講義・実習	1年前期	45
C1- 96	木造建築の木扱い術	選択	辻充孝		講義・実習	1年後期	30
	【木質材料系】						60
C1- 97	木質建材をつくる	選択	吉野安里	非常勤講師	実習	1年前期	30
C1- 98	原木流通	選択	吉野安里	非常勤講師	講義	1年前期	30
	【総合デザイン系】						210
C1- 99	木造建築の総合デザイン演習	選択	辻充孝	小原勝彦 / 廣田桂子 / 吉野安里	講義・実習	1・2年通年	60
C1- 100	木造建築構造の展示の実践	選択	小原勝彦	辻充孝	実習	1・2年通年	120
C1- 101	山里に伝える～聞き書き～	選択	原島幹典	廣田桂子 / 非常勤講師	講義・実習	1年後期	30
	【自力建設系】						180
C1- 102	基礎をつくる	選択	小原勝彦	非常勤講師	実習	1年前期	60
C1- 103	墨付けと刻み加工	選択	吉野安里	非常勤講師	実習	1年前期	60
C1- 104	架構をつくる	選択	辻充孝	非常勤講師	実習	1年後期	60
	【関連科目】						30
C1- 105	コミュニケーション・ワークショップ	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年通年	30

Page	科目名	区分	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
	【ゼミ】						270
C1- 106	ものづくりと暮らしゼミ	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	180
C1- 107	ものづくりと仕組みづくりゼミ	選択	和田賢治	松井勲尚 /久津輪雅 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	60
C1- 108	感性を問う	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	30
	【木工の基礎】						495
C1- 109	手工具	選択	久津輪雅		講義・実習	1年前期	60
C1- 110	木のカタラー	選択	松井勲尚		講義・実習	1年前期	45
C1- 111	木工機械	選択	和田賢治		実習	1年前期	60
C1- 112	電動工具	選択	和田賢治		実習	1年前期	45
C1- 113	グリーンウッドワーク	選択	久津輪雅		講義・実習	1年通年	60
C1- 114	木工旋盤	選択	和田賢治		実習	1年後期	30
C1- 115	家具制作	選択	和田賢治		実習	1年後期	60
C1- 116	木材塗装の基礎	選択	久津輪雅	辻充孝 /非常勤講師	講義・実習	1年通年	45
C1- 117	木工の材料学	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	60
C1- 118	ものづくりCAD	選択	辻充孝		実習	1年前期	30
	【木工の応用】						30
C1- 119	地域材のクラフト開発 1	選択	松井勲尚		実習	1年後期	30
	【木育の基礎】						60
C1- 120	木育講座の基礎	選択	松井勲尚		講義・実習	1年通年	45
C1- 121	教材開発	選択	松井勲尚		実習	1年通年	15
	【地域材による商品開発】						150
C1- 122	商品化と教材化	選択	松井勲尚	久津輪雅 /和田賢治 /非常勤講師	講義・実習	1・2年通年	60
C1- 123	地域材のクラフト開発 2	選択	和田賢治		実習	1・2年通年	90
	【伝統に学ぶ】						15
C1- 124	伝統工芸の見学	選択	久津輪雅		講義・実習	1・2年通年	15
	【関連科目】						45
C1- 125	救急法講習	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年前期	15
C1- 126	コミュニケーション・ワークショップ	選択	萩原裕作	非常勤講師	実習	1年通年	30

科 目		担当者(○主担当)					
森林から木材、暮らしへ1		○ 柳澤直 担当教員					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	75	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	各専門の学びに入る前に、アカデミーで展開する学びの対象を概観することで、本校での学びの概要を理解する。						
概 要	森林や樹木のこと、林業による森の造成・育成や木材生産、木材を使用した建築や家具づくり、森林文化と人との関わり、里山再生や地域づくりなど、アカデミーで展開される様々な学習の一端に触れる。						
項 目	4/13 (横井) 林業に関連する大きな流れ(伐採~造林~育林~伐採~木材 の運搬・販売・利用) (川尻) 日本の森林文化・林業文化 (池戸) 林業の機械化と作業システム (杉本) 最近の林業・木質バイオマス事情 4/14 (林業再生講座全教員) 演習林散策 4/15 (玉木) 気候変動と森林・林業 (原島) 山村の成り立ち—文化、社会の変容との関係性 (津田) 森の恵み—特用林産物 (嵯峨) 里山インキュベーターのすすめ—住民活動、外部人材導入 4/16 (柳澤・玉木・嵯峨) 身近な自然を知る 4/20 (萩原) 五感で森を体験する (和田) 木工業(全国・岐阜県の状況) 4/21 (久津輪) 伝統産業(全国・岐阜県の状況) (松井) 木育(全国・岐阜県の状況) 4/22 (松井・久津輪・和田) 木材樹種サンプルづくり(7-8 種類・共通科目「木材の種類と材質」で使用予定) 4/23 (吉野) 製材と規格材 (小原) 木材のめり込み特性や、地域材の活用提案 4/24 (辻) 燃え代 設計、地域材の活用提案 (廣田) 持続可能建築と地域の建材						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林文化論		○ 川尻秀樹 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	日本人の目で見えた森林文化、森林と人との関わりを生活文化や林業、木造建築、ものづくりなど、多方面の分野から紹介・検証し、今後の森との関わり方についての幅広い視点を身につける。						
概 要	森林文化アカデミーは自然を代表する「森」と、再生可能な「木」の活用を通して、自然の循環と一体となった持続可能な社会構築を目指している。古来日本人が築き上げた森林文化を振り返り、斬新な切り口で将来に繋がる新しい森林文化は何かを探る。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人はどのように森とつきあってきたのか。縄文時代や弥生時代、自然神道、仏教伝来と共に歩んだ日本人の思想の一部を振り返る。 2. 海外での森林文化にはどのようなものがあつたのかドルイド教や神話の一端から探る。 3. 山村地域、山村づくりから見た森林文化について（ゲストスピーカー） 4. 林業から見た森林文化について（ゲストスピーカー） 5. 木造建築から見た森林文化（ゲストスピーカー） 6. 木工・ものづくりから見た森林文化（ゲストスピーカー） 7. 自然体験活動から見た森林文化（ゲストスピーカー） 						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	出席とレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
樹木同定実習		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	樹木は森林生態系を構成する重要な要素であると同時に、林業・街路樹・庭木、または材など様々な形で利用されているが、利用に際しては樹種の正確な同定が必須である。本実習では樹木をその地上部から同定する技術を習得す						
概 要	実習では森林文化アカデミー構内の暖温帯林および植栽樹種を中心に、40種の樹木を同定できる能力を身につけることを目標とする。野外での樹木観察・サンプルの採集と標本の作製を通じて目的の樹種が判別できるようトレーニングを行う。また、図鑑を使用して未知の植物を同定できるレベルを目指す。						
項 目	1. 植物の同定のポイントに関する基礎講座 2. 野外における樹木の同定実習 3. 試験						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・試験						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
林業・林産業体験実習		○ 原島幹典 杉本和也 / 吉野安里					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	異なる専門分野を目指す学生が、森林や木材を扱う者として、必ず知っておかねばならない主要な作業を体験し、林業活動や流域木材の利用が、上流と下流を繋げる重要な方法であることを理解することを目的とする。						
概 要	林業現場での造林・育林・伐採・搬出作業の体験と、製材・加工現場での実習を通じ、植林から製材までの流れと、各段階で必要となる諸条件を知る。						
項 目	1. 地拵え・植林 2. 下刈り・つる切り 3. 間伐、造材 4. 搬出、製材						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項	実習一般（コードNo.1）						

科 目		担当者(○主担当)					
木材の種類と材質		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 吉野安里 辻充孝 / 廣田桂子					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input checked="" type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築や家具に使われる材料としての木材は、現在、無垢の木から合板等、様々なものが流通している。木材を利用する場合、知っていただきたい基礎知識を、五感を通して体験的に習得することを目的とする。						
概 要	材料としての木材は、どのような構造を持ち、どのような性質がありその適材適所とは何か。技術の進歩によりどのような新しい製品が生まれているか。木材の種類と材質についての基礎知識を提供する。講義に加え実物に触れたり、簡単な体験を行ったりすることで、理解を深める。						
項 目	①② さまざまな素材の中の木、木材の構造 ほかの素材と比べて木は・・・ 丸太を板にすると・・・ 年輪・早材・晩材・心材・辺材・木口・板目・柾目・・・ ③④⑤⑥ 木材の収縮・乾燥 道管・放射組織・木繊維・比重・含水率・収縮率・天然乾燥・人工乾燥・割れ・反り・・・ ⑦⑧ 木材の種類・同定 代表的な樹種10の見分け方 針葉樹・広葉樹・環孔材・散孔材・・・ ⑨⑩ 用途と適材適所 住宅の設計において スギ・ヒノキ・サワラ・マツ・クリ・ケヤキ・・・ ⑪⑫ 家具・小物制作において ナラ・ブナ・クルミ・サクラ・ホオ・・・ ⑬⑭加工木材 合板・MDF・パーティクルボード・LVL・CLT・スギ圧縮材・・・ 木材の同定の復習 ⑮テスト						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート・テスト						
関連する資格							
注意事項	この授業は、エンジニア科2年林産業コースと合同で行う。						

科 目		担当者(○主担当)					
文章表現・作文技術		○ 玉木一郎					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	レポートや課題研究では、明確な根拠に基づいた論理的な文書を作成する必要がある。また、この技術は卒業後の現場における補助金の申請や提案書作成でも有用である。						
概 要	本科目では、まず明確で論理的な文書の作成に関する講義を行う。その後、実際に文章を書き、それをお互いに交換して添削し合う。これを繰り返すことで、より一層の文章力の習得を目的とするものである。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分かりやすい文章 2. 文章の構成要素 3. 文をわかりやすくする技術 4. 文章をわかりやすくする技術 5. 文章の体裁 6. 見やすい図表の作り方 7. MS Wordによる文章の作成・校正 8. 実習：テーマに基づく作文 1 9. 実習：相互添削・解説 10. 実習：テーマに基づく作文 2 11. 実習：相互添削・解説 12. 実習：テーマに基づく作文 3 13. 実習：相互添削・解説 14. 実習：テーマに基づく作文 4 15. 実習：相互添削・解説 						
テキスト参考書	随時プリント配布, 100ページの文章術 共立出版, 理科系の作文技術 中公新書						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
情報発信演習		○ 辻充孝 久津輪雅 / 和田賢治					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	今日、情報網の発達によって多種多様で膨大な情報があふれている。本授業では、伝えたい情報を整理し、さまざまな手段を用いて効果的に相手に伝えるための技術や表現を身につける。						
概 要	膨大な情報に紛れることなく、届けたい相手に適切な情報を届ける。情報が伝わることで、反応があり、仲間が増え、新しい視点が広がる可能性がある。様々な情報発信の方法を演習を通して身に付ける。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 写真の撮影手法と加工 カメラの基本知識、構図の決め方といった写真撮影のポイントを学ぶ。 撮影した写真の露出補正やトリミングなどの写真加工の基本を学ぶ。 基本ソフトの修得1：フォトショップの使用法を学ぶ 2. プレスリリースのデザイン 時代性や社会性を意識した文章で、伝えたいテーマを的確に表現する手法を学ぶ。 3. リーフレット、DMのデザイン 必要最小限の情報をわかりやすく、印象に残るようにデザインする手法を学ぶ。 4. ホームページ、ブログ等のWEBデザイン 階層に分かれた内容をよりわかりやすくデザインする手法を学ぶ。 基本ソフトの修得3：ブログ、ホームページ作成ツールの使用法を学ぶ 5. スライドショーのデザイン 限られた発表時間の中で、全体の構成を組み立て伝えたいメッセージを表現する手法を学ぶ。 写真を中心としたシンプルな講座紹介のスライドショーを作成する。 6. プレゼンテーションの総括 パワーポイントを用いて、これまでの学びの成果をまとめる。発表構成や発表方法など、総合力を高める。 						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席と課題提出、発表状況を判断						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニティビジネス起業論 (基礎編)		○ 嵯峨創平 杉本和也 / 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	コミュニティビジネス起業または組織内新事業立ち上げのための情報収集・分析、事業企画作成、プレゼンテーションの基本的ツールを紹介しながら演習形式で理解し、各人が事業計画を企画提案する。						
概 要	クリエイター科各講座で学んだ知識・技術を実社会で仕事として展開するには、自らの事業目標や地域課題解決の提案を、周囲の人間へ正しく伝えながら、採算性の取れるビジネス手法で展開することが必要となる。各人の事業計画作成を通じて事業経営の発想と基本様式を身にづける。						
項 目	1. コミュニティビジネスとは 2. 地域資源調査の方法（実習） 3. 情報分析の方法 4. 中間発表「コミュニティ課題の分析と抽出」 5. 事業計画の立て方（5Pモデル） 6. 事業目的と法人形態の選択 7. プレゼンテーションの技法 8. 最終発表「ビジネスプランの提案」						
テキスト 参考書	随時プリント配布。初回授業で推薦図書を提示する。						
事前履修科目							
評価方法	出席、発表など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
アウトドア・チームビルディング		○ 萩原裕作 川尻秀樹 / 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	個々の違いを認め合いながらチームの力を最大限活用して目標や課題を達成するためにはどうしたらよいか、その方法とその重要性を体験的に学びます。						
概 要	岐阜県が誇る森と川を舞台に、ツリークライミングやラフティングをはじめとしたチームビルディングのためのプログラム体験を通してチームによる課題解決や自分自身への挑戦をし続ける2日間です。						
項 目	<p>自然環境を舞台とした内容のため、天候や川の状態を見て担当講師が適切な内容を展開していきます。以下は昨年の一例です。</p> <p>1日目 「チームビルディング&ツリークライミング」</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 様々なコミュニケーション <input type="checkbox"/> 個々の違いに気づく <input type="checkbox"/> 仲間を信じる <input type="checkbox"/> 自分に挑戦する <input type="checkbox"/> 共有する <p>2日目 「チームビルディングラフティング」</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 長良川を舞台にラフティングを使ったチームビルディングを実施。 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、授業態度から総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	1日目は、活動しやすい服装 2日目は、水着（ウェットスーツの下に着るもの）、運動靴（濡れてもよいもの。サンダル、クロックスはNG）、眼鏡バンド（落下防止用）などが必要です。						

科 目		担当者(○主担当)					
山里に聞く		○ 原島幹典 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	県内の山村地域を訪ね、集落内や周辺の野山を歩き、そこで暮らす人から直接話を聞き、興味を深める。聞き書き作品づくり体験を通じ、他人の話をきちんと聞くための作法と心構えを身に付ける。						
概 要	知ったこと、学んだことについて絵地図や文章にまとめて共有する。発表会を開き、地域の人にお返りする。「山里の聞き書き」の入門編。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 「山里の聞き書き」とは 2. 山里訪問 (「あるもの探し」と「聞き取り」) 3. 音声おこし、書き取り 4. 文章化、編集、ミニ聞き書き作品づくり 5. 読み合わせ会 6. あるもの探しマップ作成 7. 山里再訪・発表会 						
テキスト参考書	山里の聞き書き (山里文化研究所編)						
事前履修科目							
評価方法	出席、作品提出とその発表						
関連する資格							
注意事項	I Cレコーダー等録音機器、デジタルカメラの持参推奨						

科 目		担当者(○主担当)					
地域活性化概論		○ 客員教授 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	必須
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「これからの未来を作り上げよう」とする学生にとって地域再生は必須の課題であり、卒業後に各地に根を張った時、それら地域の課題を解決する為の方策を、美濃市の取り組みを例に学ぶ。						
概 要	本講義では、アカデミーが立地する美濃市を中心に、里山や清流に暮らす人々の「先人たちが果たした偉業や守ってきた技術、祭り、暮らしぶり、生活の知恵、伝統文化等」を学ぶとともに、市内外の地域づくりに活躍した人物から生の講義を聞く。						
項 目	<p>[5/19] 「美濃市の伝統文化と自然を活かしたまちづくり」「コンパクトシティ」「新しい公共」について</p> <p>[6/16] 「岐阜弁と美濃町弁、美濃祭り」「流しにわか制作と実演」 【神田卓朗(前岐阜女子大学教授)、豊沢正信(美濃流しにわか保存会長)】</p> <p>[7/21] ユネスコ無形文化遺産、「本美濃紙」と「美濃和紙の進化」について 【松久豊太郎(大福製紙社長)、船戸友数(美濃和紙の里会館館長)】</p> <p>[9/15] 「明治の先人達によるまちづくりに学ぶ」「市内の歴史文化遺産の視察」 【古田憲司(美濃市文化財保護委員)】</p> <p>[10/20] 「日本一の太陽光発電、グリーンツーリズム、人形劇と限界集落を活かした、ツアーオブジャパンのまち飯田市」※飯田市視察 【牧野光朗(飯田市長)】</p> <p>[11/17] 「歴史まちづくり事業」、「歴史的建造物の活用(空き家の活用)、修復と自然災害(地震、豪雨等)対策」と「受講生による提案」 【高木宏和(美濃市人づくり文化課)】</p> <p>[12/15] 「地方創生」と「農業、林業や景観等による元気な地方都市を目指して」 【横尾俊彦(多久市長)】</p> <p>[1/19] 総括。各受講生の「私の地域づくり提案とその狙い」「自分を活かした生き方について」</p>						
テキスト参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	一部を「公開講座」とする。内容は変更する場合がある。						

科 目		担当者(○主担当)					
コロキウム		○ 柳澤直 担当講座					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	必須
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	教員と学生間、ないしは学生相互間での意見交換や議論を図る場としてコロキウムがある。学生の活発な議論への参加が求められる。						
概 要	エンジニア科・クリエイター科、全学生が積極的に参加する活動を行う。学生が主体となって運営し、全員参加の取り組みになるよう、教員がコーディネートする。						
項 目	5/12 在校生と卒業生の森林文化ワークショップ 6/1 自力建設候補作品プレゼン 7/7 クリエーター科課題研究中間発表会 メンタルヘルス講習会 10/13 (未定) 11/24 (未定) 1/26 (未定)						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
インターンシップ		○ 科長 指導教員					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	学生が課題研究の内容に参考となる企業などでの就業体験を行うことで、課題研究の内容を深める、もしくは将来の身の振り方について方向付けを行うための機会とし、より自分に適した職種を探る契機とするものである。						
概 要	希望学生が特定のインターンシップ先に集中し、受け入れ先での対応が不可能な場合は再度調整してインターンシップ先を変更決定することもある。内容については、受け入れ先に一任するため、希望者が事前にインターンシップ先に連絡を取り、業務内容に併せた持参品などを用意することとする。						
項 目	1. 事前相談(各科長、課題研究指導教員)【随時】 2. インターンシップ先の決定【2ヶ月前まで】 3. 承認【2ヶ月前まで】 4. 受け入れ依頼文書(事務局)、学生プロフィール(学生)の送付、欠席届の提出【1ヶ月前まで】 5. インターンシップ実施の内容(課題研究指導教員) 6. インターンシップ実施 作業日報(学生) 7. お礼文書を事務局に提出【インターンシップ後1週間以内】 8. 作業日報とあわせて、インターンシップで得られた成果についての作業報告書を科長及び指導教員に提出【インターンシップ後1週間以内】 9. 時間認定						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	作業日報、作業報告書						
関連する資格							
注意事項	実施時期がやむなく授業時間と重なり、欠席届を提出した場合には、成績評価時に考慮されることもある。インターンシップ保険に加入すること。時間認定が2月中旬となることを念頭にインターンシップ実施期間を設定すること。						

科 目		担当者(○主担当)					
プロジェクト		○ 柳澤直 担当教員					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	90	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input checked="" type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	アカデミーが目指す人材を育成するために、地域で生じている諸問題の解決を題材に取り上げて、より実践的な調査や研究、設計、製作、セミナー、視察研修などを通年で実施する。						
概 要	これまでに、森林整備活動や、木質バイオマスエネルギーの利用検討、森林に関するビジネス、里山の管理と生物相の調査、木造建築の設計・管理・監理、住環境調査、改築、木育プログラムの規格及び実施、ものづくり商品化プロジェクト、ものづくり用材のための広葉樹林間伐などが実施された。						
項 目	内容については担当教員に確認のこと。						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項	単位認定には累積時間で90時間以上が必要						

科 目		担当者(○主担当)					
林業の再生		○ 横井秀一					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	これから林業について学んでいくために、日本の林業の現状と課題を知る。あわせて、林業に関する専門用語を覚え、かつ、情報の収集と整理、課題の発見、情報の伝達、議論という学び方のスタイルを習得する。						
概 要	授業は、ゼミ形式で行う。林業の現状と課題をいくつかのテーマに分け、各学生がいくつかのテーマを受け持ち、自ら情報を収集・分析し、その結果と調べる過程で疑問に思ったことや自ら考える課題解決のための方策などを発表する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林業の概観 2. 木材関連産業 3. 木材の流通と木材価格 4. 育林コストと木材生産コスト 5. 森林資源と木材生産量 6. 林業の機械化と路網整備 7. 林業の担い手 8. 林業政策と施策 9. 諸外国の林業 10. 林業の新たな取り組み 						
テキスト参考書	参考書：「日本林業はよみがえる」「国産材はなぜ売れなかったのか」「先進国型の林業の法則を探る」「日本人はどのように森をつくってきたのか」						
事前履修科目							
評価方法	授業中に課す課題の発表						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
市場経済の中の林業		○ 杉本和也 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業経営を考えるには、森林資源育成・公益的機能の発揮と同時に地域経済や地域外の経済との関係を理解しなければならない。この授業では様々な事例を通して、林業の方向性について理解する。						
概 要	森林資産の育成と市場経済のつながりを考え、森林所有者・素材生産事業体・製材加工業といった各プレイヤーが置かれている現状をミクロ・マクロな視点から捉えた上で、どういう経営戦略を立てるべきか考える。授業はテーマに沿ったケーススタディ・ディスカッションを行いながら、進行する。						
項 目	<p>※下記テーマ(例)は全体の一部です</p> <p>1～2 森林所有者の立場から森林育成・木材生産・林業経営を考える テーマ(例)：経済・経営的な側面から見た森林・林業の特性とは？ (例)：日本は外材を輸入すべきだったか？ (例)：受講者それぞれの「林業」の定義、対象はどこか？</p> <p>3～4 市場経済の中での戦略 テーマ(例)：林業はプロダクトアウト／マーケットインのいずれであるべきか？ (例)：林業における垂直統合と水平連携の意味とメリット／デメリットとは？ (例)：森林所有者・森林組合・素材生産事業体・木材産業・地域経済の経済・経営的バランスをどのように捉えるか？</p> <p>5～6 戦略の中での組織づくり、システム構築 テーマ(例)：林業に求められるのは、ゼネラリスト人材かスペシャリスト人材か？ (例)：林業従事者のモチベーションを保つためには、何が必要か？ (例)：組織形態(個人森林所有者・森林所有者会社・素材生産事業体・森林組合等)は林業活動にどのように影響を与えるか？</p> <p>7～8 これからの林業を考える テーマ(例)：林業は国際分業・地域分業をすべきか？ (例)：再びスギ・ヒノキを更新し経済・経営的バランスを保つことは可能か？</p>						
テキスト参考書	①森林の江戸学(2012) ②伴 利人日本の国宝を守る(2014) ③資本主義の終焉と歴史の危機(2014) ④社会的共通資本(2000)						
事前履修科目							
評価方法	出席、講義への参加点、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林政策・森林計画		○ 池戸秀隆					
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業に関する法規や制度について知るとともに、日本国あるいは岐阜県が森林や林業のあり方をどのように考えているかを理解する。						
概 要	森林や林業に関する基本的な法規、現在の森林製作やその中における各種の制度について学ぶ。また、国や都道府県・市町村で林野行政を担う組織の概略を知り、それぞれが抱える問題点などについても考察する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森林法と森林・林業基本法 2. 保安林制度 3. 森林計画制度（全国森林計画、地域森林計画、市町村森林整備計画） 4. 森林経営計画 5. 補助金と直接支払制度 6. 普及員とプランナー（林業普及指導員、森林総合管理士、施業プランナー） 7. 国有林とその組織 8. 都道府県や市町村の組織 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	試験またはレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林情報		○ 川尻秀樹 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	地理情報システムの可能性を理解し、測量データのGISデータ化の技術をマスターし、林業経営における情報管理のあり方について見識を深めることを目的とする。						
概 要	GPSデータと林分の現況など、他の情報を組み込んで、地理情報システム (Geographic Information Systems) として幅広い利用をするため、行政型のGISや森林組合でのGIS利用、最先端の研究所での利用実態を実習・演習形式で学ぶ。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. GISデータであるラスターデータやベクタデータ（ポイント、ライン、ポリゴン）を理解し、リモートセンシングや空中写真とデジタルオルソフォト、レーザープロファイルなどの概要を学ぶ。 2. 試験場型GIS、森林組合理型GIS、行政型GISについて概要を学ぶ。 3. 岐阜県庁の林政部が主体で管理する森林GIS、治山GIS、農山村整備GISについて、県庁で演習しながら学ぶ。 4. 岐阜県内の森林組合が導入しているGISと組合独自のGIS利用方法を、現場で演習する。 5. GISに組み込むための新しい測量システム（デジタルコンパス）とGPSの利用方法を実習の中で会得する。 6. 試験場型GISの実際を岐阜県森林研究所で学び、森林GISと新しい測量の連携・森林情報の展望を探る。 						
テキスト参考書	実務で使う林業GIS						
事前履修科目							
評価方法	レポート						
関連する資格							
注意事項	現場では必ずヘルメット着用。						

科 目		担当者(○主担当)					
原木流通		○ 吉野安里 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	原木流通の現状を知る						
概 要	原木市場、製品市場、その中間である製材工場の現状を知る。						
項 目	1. 戦後構築されてきた木材流通体系の現状 2. 2つの市場(原木市場と製品市場)とその中にある製材工場の役割 3. 製材業の大規模化がもたらす木材流通変革 4. 岐阜県が占める東海地域の木材産業との関係 市場見学(原木、市場) 2回程度						
テキスト 参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席 レポート						
関連する資格	なし						
注意事項	見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参						

科 目		担当者(○主担当)					
木質バイオマス資源とその利用		○ 杉本和也 辻充孝 / 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	バイオマス発電やボイラーなどに対する森林資源のポテンシャルを把握することは重要である。本講義では、講義や実地研修を通して、木質バイオマスの位置づけを掴み、その可能性や限界について検討することを目的とする。						
概 要	「木の駅」プロジェクトなど木質資源を利用して、地域活性化とエネルギー需給を両立させる仕組みや、大型のバイオマス発電など実例を通して、木質バイオマスの可能性や限界について検討する。						
項 目	1. 木質資源の今、昔 2. エネルギーの需給の変化 3. 暮らしの変化 住宅におけるエネルギー需給の変化 4. 木質バイオマスの可能性 5. 木質バイオマス利用の実際 6. 地域のエネルギー自給（事例紹介）						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
技術開発動向調査		○ 横井秀一 川尻秀樹 / 杉本和也 / 池戸秀隆					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目的	これからの時代の林業のあり方を考えていくための基本的な知見を持つために、新しい林業技術（施業技術や林業機械など）についての情報を得る。						
概要	学会、研究会、発表会、シンポジウム、展示会などに参加する。						
項目	1. 「岐阜県森林研究所 研究・成果発表会」の聴講 2. 先進的な林業経営・森林施業の現場の見学 3. 「森林・林業・環境機械展示実演会」の見学 4. 「岐阜県森林・林業合同発表会」の聴講						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	聴講・見学の都度に提出するレポート						
関連する資格							
注意事項	参加する企画や見学先の都合により、内容や日程が変更になる場合がある。						

科 目		担当者(○主担当)					
樹木学実習		○ 横井秀一					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業・森林管理を念頭に置いた樹種について、それらを同定する能力を高め、各樹種の種生態学的な特性や利用上の特性を理解する。						
概 要	野外において樹木を観察しながら、形態的特徴を覚えるとともに種生態学的性質を学び、樹種の同定能力を身に付け、あわせて図鑑による検索・同定の手法を学ぶ。また、各樹種の材や植物材料としての利用方法についても学ぶ。						
項 目	<p>1. 着葉期実習 主要樹種について、同定能力を身に付けながら、生態学的特性を理解する。着葉期実習では、基礎的用語の理解（樹木・木材同定実習の復習）、葉による同定、実生の同定と更新サイトの理解、開芽とシュートの伸長様式の理解、樹形と光獲得戦略の理解に力を注ぐ。</p> <p>2. 落葉期実習 落葉樹については、落葉期においても樹種の同定ができる能力を身に付ける。落葉期実習は、樹形・枝ぶりによる同定と樹形の意義の再確認、樹皮による同定、冬芽による同定、その他の特徴による同定に力を注ぐ。 常緑樹については、着葉期実習と同様である。</p>						
テキスト参考書	参考書：「検索入門 針葉樹」「検索入門 樹木①②／冬の樹木」「樹に咲く花」「葉でわかる樹木」「花実でわかる樹木」「冬芽でわかる落葉樹」						
事前履修科目	樹木同定実習						
評価方法	試験						
関連する資格							
注意事項	野外実習時のドレスコート：1実習（一般）						

科 目		担当者(○主担当)					
樹木生理学		○ 玉木一郎					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	固着性である樹木にとって、周囲を取り巻く環境はきわめて重要な要素である。樹木の体の仕組みと働きを知ることに加え、樹木とはどのような生物で、どんな環境のなかで、どのように生育しているのかを理解することが重要である。						
概 要	本科目では、まず全生物の中のどこに植物が位置づけられているのかを理解する。さらに光合成の仕組み、植物と水の関係、植物の発生、種子の発芽生理、優性・無性生殖、林木育種の基礎などについて学ぶ。						
項 目	1. 生物の系統分類と植物 2. 植物の生活形と生活環 3. 植物の体の構造1 4. 植物の体の構造2 5. 植物と水 6. 植物と光 7. 植物ホルモン 8. 光合成 9. 植物の成長 10. 環境適応 11. 植物の有性生殖と無性生殖 12. 植物の繁殖戦略 13. 植物の系統地理学 14. 林木育種 15. 地域性種苗						
テキスト 参考書	随時プリント配布、植物生態学 朝倉書店、植物用語辞典 八坂書房、樹木生理学 化学同人、植物の生命科学入門 培風館、樹木環境生理学 文永堂出版						
事前履修科目	森林生態						
評価方法	出席・レポート・試験						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森を知る		○ 横井秀一					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	様々な森林タイプやそれぞれのタイプで様々な発達段階の林分を観察し、そこで行われている施業と結びつけることによって、目標林型やそれと施業の関係について理解する。						
概 要	林業という視点で見たときの岐阜県内の代表的なタイプの森林を見学する。とくに目標としての高齢林、そこに至る過程の各発達段階の森林を観察し、そこで行われている施業の目的と方法をあわせて学び、森林の姿と施業とをしっかりと結びつけられるようにする。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. スギ高齢林とスギ人工林長伐期施業 2. ヒノキ高齢林とヒノキ人工林長伐期施業 3. 広葉樹高齢林と広葉樹人工林施業・天然林施業 4. 株スギと同一個体からの持続的収穫 						
テキスト参考書							
事前履修科目							
評価方法	現地見学の都度に提出するレポート						
関連する資格							
注意事項	見学時のドレスコード：5見学（山林）						

科 目		担当者(○主担当)					
森林生態		○ 柳澤直					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	現代社会において重要な地球環境問題や、森林を整備する現場、木を素材に生産を行う場合それぞれにおいて必要である樹木や森林生態系についての基本的な知識を習得し、森林の多面的機能の理解につなげることを目的とする。						
概 要	生物について興味を持つことのできるような話題で、生態学の基礎を学んだのちに、森林という生態系を深く理解するための基本的な知識について講義する。単に木材生産だけでなく、生物多様性の喪失、地球温暖化や土砂災害など森林を取り巻く様々な問題について包括的に理解できる体系的な学習を目指						
項 目	1. 生態学とは 2. 環境と生物の関わりについて 3. 個体群について 4. 生物群集について 5. 生態系について 6. 植物の分類について 7. 群落の分布について 8. 生物地理学について 9. 植生遷移について 10. 林野土壌について 11. 生物間相互作用について 12. まとめ						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席、試験						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林立地		○ 柳澤直					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	森林の立地について、地質学・地形学・土壌学等の分野の知識を織り交ぜながら、立地の背景にある様々な現象について理解し、森林管理・造林・造園などの現場での確に状況を判断し、知識を応用できるようになることを目指す。						
概 要	日本列島の地質的特徴や、地形など森林の立地に関する基礎的な知識について学習した後、地質と地形、森林植生との関係について、実際に天然林を踏査しながら解説する。また、森林植生や林木の生長に密接に関連する森林土壌についても、野外にて土壌断面の作成・記載方法等について実習を行う。						
項 目	1. 気候と立地について（温量指数・植生帯について） 2. 気象と立地について（積雪・霜害・台風など立地環境と関係する気象について） 3. 地質について（地質学の基礎・岩石の生成について） 4. 地質について（表層地質） 5. 地形について（地質との関係・地形の形成など） 6. 土壌について（土壌学の基礎：森林土壌の理学的性質） 7. 土壌について（土壌分類・土壌地理について） 8. 土壌について（林野土壌の形成過程や地形・地質との関係） 9. 植生について（地質・地形・土壌と植生の関係） 10. 森林立地調査法について 11. 森林立地と樹木の分布・更新について 12. 森林立地と天然林の分布について 13. 森林立地と造林について（地位指数等）						
テキスト参考書	森林立地調査法（博友社） 森林土壌の調べ方とその性質（林野弘済会）						
事前履修科目	森林生態						
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
造林の基礎		○ 横井秀一					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	森林の造成や育成・管理を行うための基本的な技術体系と、それを構成する個別技術について、基本的な作業技術とその裏付けとなる科学的根拠を理解する。						
概 要	現在の日本林業の基本（主流）である針葉樹一斉人工林施業を基軸に、造林・育林のために行われる各種の作業の目的や方法を、その裏付けとなる科学的根拠・理論とあわせて学ぶ。さらに、各作業の問題点や改善方法についても考察する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森林施業の目的と方法（人工林の目的、施業基準・施業体系、目標林型） 2. 林木育種（育種目標、精英樹選抜育種、採種園・採穂園、育種基本区） 3. 林業種苗（林業種苗法、苗木の配布区域、苗木の規格、優良苗の条件） 4. 地拵え（地拵えの目的と方法） 5. 植栽（造林樹種の特長、適地適木、植栽密度、植栽の方法） 6. 下刈り（下刈りの目的と方法、下刈りの省力化） 7. つる切り（つるの種類と被害、つる切りの方法） 8. 除伐（除伐の目的と方法、除伐による林型誘導） 9. 林木の成長（林木の成長様式、枝の発達と樹形の形成、林木の成長と密度） 10. 森林の発達と密度（密度効果、密度管理図、収量比数、相対幹距、形状比） 11. 各種の間伐方法（下層間伐、択伐の間伐、列状間伐、将来木施業） 12. 間伐の進め方（生産目標と間伐、間伐強度、間伐計画） 13. 枝打ち（枝の発達様式、枝打ちの目的と方法、枝打ちの意義） 14. 温度に関する気象害とその対策（凍害、霜害、凍裂、寒風害、干害） 15. 風と雪に関する気象害とその対策（風害、雪圧害、冠雪害） 16. 病害・虫害とその対策（林木の病害、林木の虫害） 17. 獣害とその対策（幼齢木の獣害、壮齢木の獣害） 						
テキスト参考書	参考書：「造林学（川嶋書店版）」「造林学（朝倉書店版）」「新たな森林管理」						
事前履修科目							
評価方法	試験						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
多様な森林施業		○ 横井秀一					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自然環境や経営方針・経営戦略などに応じて展開される多様な森林施業について、その理念や特色、そこに適用される林業技術、それを支える科学的根拠などを知る。						
概 要	各種の施業について、その施業が生まれた背景、施業の目的・意義、それを支える林業技術などについて学ぶ。実際の森林の姿と施業の関係を理解するため、各種施業地の見学（現地検討）も交える。						
項 目	1. 森林の機能と目標林型 森林の機能、森林施業の目的、機能別の目標林型、生産目標と目標林型、短伐期施業、長伐期施業 2. 法正林と恒続林 森林の保続、林業の持続可能性、法正林思想、恒続林思想 3. 複相林と複層林 択伐林施業、単木択伐、群状択伐、帯状択伐、二段林 4. 天然下種更新と萌芽更新 前更更新、後更更新、種子散布様式、埋土種子、更新面、萌芽更新、更新阻害要因、更新補助作業 5. 広葉樹の人工林施業と天然林施業 広葉樹造林樹種とその特性、植栽適地、初期保育、成林阻害要因、広葉樹の成長様式、広葉樹の樹形と成長、除伐の目的と方法、間伐の目的と方法 6. 多雪地の森林施業 積雪環境区分、冠雪害、冠雪害の回避方法、雪圧害、不成績造林地とその修復、積雪地帯の今後の林業						
テキスト参考書	参考書：「主張する森林施業論」「新たな森林管理」「森づくりの心得」「雪国の森林づくり」「広葉樹の森づくり」						
事前履修科目	造林の基礎、林業の再生						
評価方法	試験またはレポート						
関連する資格							
注意事項	現地見学時のドレスコード：1実習（一般）						

科 目		担当者(○主担当)					
森林調査法		○ 津田格 柳澤直 / 玉木一郎 / 横井秀一					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	森林管理、施業計画を立てる際に、その森林の状況を把握することは重要である。本科目ではその調査方法を習得するとともに、その実習を通して、森林の植生（構成樹種、階層構造など）や立地条件を理解することを目的とする。						
概 要	森林調査において用いられる各種の調査法（コドラート法、ベルトトランセクト法など）を実際にいくつかの森林において実施することにより、その技術を習得する。樹幹解析も行う。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人工林の調査、林分材積の評価（コドラート法） 2. 常緑広葉樹林の調査（コドラート法） 3. 落葉広葉樹林の調査（コドラート法） 4. 落葉広葉樹林、アカマツ林の調査（ベルトトランセクト法） 5. 樹幹解析 6. データ解析、まとめ 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木材生産システムの基礎		○ 杉本和也 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業において生産システムとは、長い間育ててきた森林から収益を上げる手段であり、林業の経営上、重要な役割を果たす。生産システムの特徴を理解し、どのような生産システムを導入すればよいか、判断できるようにする。						
概 要	車両系作業システム、架線系作業システムのそれぞれのメリット、デメリット、原価計算の方法について、講義や実習を通じて理解を深めていく。						
項 目	1～2 林業における集材作業システムの概要 集材の歴史、集材機械の特徴、生産性 機械の性能、仕組みと、今後の技術的な課題 3～4 車両形作業システム 路網の歴史、路網の種類、線形、複合路網、考え方 土木工学と、今後の技術的な課題 5～6 架線系作業システム 路網の歴史、路網の種類、線形、複合路網、考え方、今後の発展 7～8 作業システムの構築方法 9～10 原価計算法、費用対効果の算出法 11～14 作業の改善手法（林業の現場見学）						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
林道と作業道		○ 杉本和也 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	道にはトラックの通行を想定した林道や、フォワーダなど林業機械の通行を想定した作業道があり、それぞれ規格や密度が異なる。それぞれの道の目的や規格を学び、生産システムを効率化する上で必要な路網の配置について検討す						
概 要	林道、作業道の目的、役割、それぞれの経済効果について講義で学び、実際に演習林で路線の計画を行う。						
項 目	1～2 林道、作業道の目的、役割 歴史的経緯、林道の違い、行政的な基準の違い 3～4 作業道の経済効果 作業道密度の理論、生産性とコスト、メンテナンスコスト 5～6 作業道の種類 道幅、機械との組み合わせ、各種の工法、大橋式作業道と四万十式作業道 7～10 作業道の作設の実務 図上での路線選定、現地踏査 11～14 作業道と環境 作業道が環境に与える影響						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
安全管理の推進		○ 杉本和也					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	授業では、まず林業・林産業の労働災害の現状を知り、安全管理の必要性を感じてもらうこと、また労働災害が発生する原因について理解し、適切な対策を立てられることを目的とする。						
概 要	安全管理の意識を高めるためには、まず災害について自分で考えることが必要である。小レポートの提出や、授業中のディスカッションを行い、安全について考えていく。						
項 目	1～4 林業における労働災害 林業の位置づけ、労働災害事例の紹介 5～8 労働災害の原因分析 林業における労働災害の原因分析 9～15 安全管理の方法 安全管理の理論、具体的な方策						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
チェーンソー・刈払い機入門		○ 原島幹典 ／ 杉本和也 ／ 川尻秀樹 ／ 横井秀一 ／ 池戸秀隆					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業をはじめ、農業、造園業等でも広く現場で使用されている動力機械（チェーンソーと刈払い機）について、初心者を対象として、安全に関する知識と正しい操作方法を知る。						
概 要	チェーンソー、刈払い機取扱い作業者に対する安全衛生教育カリキュラムにのっとり、基本的な取扱い技術とメンテナンスを学ぶ。						
項 目	<チェーンソー> (学科) 1. 伐木作業に関する知識 2. チェンソーに関する知識 3. 振動障害及びその予防に関する知識 4. 関係法令 (実技) 5. チェンソーの操作 6. 伐木・造材作業の基礎技術 7. チェンソーの点検及び整備 <刈払い機> (学科) 1. 刈払機に関する知識 2. 刈払機を使用する作業に関する知識 3. 刈払機の点検及び整備に関する知識 4. 振動障害及びその予防に関する知識 5. 関係法令 (実技) 6. 刈払い機の作業等						
テキスト参考書	林業労働災害防止協会発行「伐木作業安全衛生必携」、「刈払機取扱作業必携」						
事前履修科目							
評価方法	出席全課程出席者のみ修了証を交付						
関連する資格	労働安全衛生法（抄）59条に基づく安全衛生教育修了証交付						
注意事項	実習一般（コードNo.1）						

科 目		担当者(○主担当)					
チェーンソー・刈払い機操作実習		○ 川尻秀樹 ／ 杉本和也 ／ 原島幹典 ／ 横井秀一 ／ 池戸秀隆					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	チェーンソーや刈払い機の取り扱いを単に資格取得のレベルにとどめず、安全に作業実施できるよう繰り返し実習して、機械の取り扱いそのものを体に覚えさせることを目的とする。						
概 要	実習内容は丸太を用いた基礎動作の繰り返し練習が中心で、チェーンソーメーカーのサービスマンによる講義や実習も含み、業界の最先端の考え方も学ぶ。						
項 目	1. 基本点検の再確認 2. ソーチェンの脱着練習 3. 基本的な目立て訓練 4. 丸太の垂直切り・水平切り・斜め切りの練習 5. 丸太の垂直切りの上下合わせ切り・水平切りの左右合わせ切り 6. 正確な伐倒方向の確認と受け口、追い口の「作成」 7. チェンソーの整備 8. 刈払い機の基本操作・整備の練習 9. 刈払い機による草類の切断 10. 刈払い機による灌木の切断						
テキスト参考書	小田師範が語るチェーンソー伐木の極意、伐木造材術（全国林業改良普及協会）						
事前履修科目	チェーンソー・刈払い機入門						
評価方法	実技による評価						
関連する資格							
注意事項	ドレスコードにあるヘルメット、呼び子、耐切創手袋、耐切創パンツかチャップス、作業服、耐切創チェーンソーブーツの着用が必須となる。						

科 目		担当者(○主担当)					
林業架線		○ 池戸秀隆 非常勤講師 / 川尻秀樹 / 杉本和也					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	120	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input checked="" type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林道作業道が開設できないような急傾斜地では架線系システムの導入が重要になってくる。この科目では架線に関する知識や技術について学ぶ。						
概 要	架線技術を習得するためには、架線の架設方法・段取りに関する知識、力学に関する知識、法令に関する知識の習得が必要である。また知識を習得した上で、架線の設置および集材機の運転を実習することで、林業架線についての技術を学ぶ。						
項 目	座学 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機械集材装置と運材索道に関する知識 ・ 林業架線作業に関する知識 ・ 林業架線作業に必要な力学に関する知識 ・ 関係法令に関する知識 実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な道具の準備 ・ エンドレスタイラー方式の索張り ・ 運転・集材実習 ・ 架線の撤去 ・ アイスプライス、ショートスプライスなどロープ加工処理 						
テキスト参考書	林業架線作業主任者テキスト（林材業労災防止協会）						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格	林業架線作業講習修了証書 機械集材装置運転特別教育修了証						
注意事項	◆ドレスコード 実習時の役割分担でチェーンソーを用いる人は、チェーンソー用のドレスコードで臨むこと						

科 目		担当者(○主担当)					
救急法講習		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	日常生活のみならず、アカデミーが網羅する全ての現場において危険はすぐ隣り合わせにあり、中には特殊な状況下のものも多く含まれます。一社会人としてそれらに対して積極的に対応できるよう基本技術を学びます。						
概 要	基本的な救急法講習に加え、林業、ものづくり、建築、山村づくり、環境教育、それぞれの現場で起きやすい特殊な状況下での対応方法を、知識や技術を吸収する日と、忘れかかった頃にシュミレーション状況下でチームで対応してもらう日との2日間で体験的に技術や考え方を習得してもらいます。						
項 目	<p>基本的に以下の項目に触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な心構え（救急法とは） <input type="checkbox"/> 心肺蘇生 <input type="checkbox"/> 止血法 <input type="checkbox"/> やけど <input type="checkbox"/> 搬送法 <input type="checkbox"/> 日射病・熱射病 <input type="checkbox"/> パニック・過呼吸 <input type="checkbox"/> 安全体位 <input type="checkbox"/> 各種症状 <input type="checkbox"/> 危険な生物 <input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> 連絡方法 <input type="checkbox"/> 身近な道具を使った技術 <input type="checkbox"/> シュミレーション・トレーニング 						
テキスト参考書	「救急法ハンドブック」を受講時に購入してもらいます（100円程度）						
事前履修科目							
評価方法	出席や授業態度など総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	当日は動きやすい服装で来てください。 また、テキスト代として100円程度を当日持参してください。						

科 目		担当者(○主担当)					
哺乳類・鳥類		○ 柳澤直 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	人と野生生物との共存のため、野生生物に配慮した管理を行う必要がある。一方、シカ・クマ・サルなどによる農林業被害も起こっている。以上から、野生生物保護管理に関する基本的な考え方を養うことを目的として授業を行う。						
概 要	哺乳類と鳥類を取り上げ、分布や生態、保全等についての基本的な内容を取り扱う。さらに、農業や林業における獣害の実態とその対策についても解説を行う。それらの内容を通じて野生生物保護管理に関する基本的な考え方を養う。また、絶滅のおそれのある哺乳類・鳥類とその保護問題についても言及する。						
項 目	1. 哺乳類の生態等 2. 農林業被害の現状及びそれを及ぼす哺乳類の特徴 3. 野生生物保護管理の考え方 4. 外来種による生物多様性への影響 5. 鳥類の生態等 6. 鳥類の野外調査法 7. 絶滅のおそれのある哺乳類・鳥類と保護問題						
テキスト 参考書	「鳥類生態学入門」山岸哲編著（築地書館）						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
動物同定実習		○ 玉木一郎 津田格 / 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山林には樹木以外にも多くの生物が生息している。生物多様性に配慮しながら山林を利活用していくうえで、それらの生物を発見・同定する能力は必要不可欠である。						
概 要	本科目では、昆虫類・魚類・ほ乳類などの発見・採取・同定方法を学ぶ。また、危険生物の種類とその対処についても学ぶ。						
項 目	1. 山村の危険生物とその対処 2. 山村の昆虫類の採取・同定 3. 山村の昆虫類の採取・同定 4. 山村の昆虫類の採取・同定 5. 山村の昆虫類の採取・同定 6. 山村の昆虫類の採取・同定 7. 山村の魚類の採取・同定 8. 山村の魚類の採取・同定 9. 山村の魚類の採取・同定 10. 山村の魚類の採取・同定 11. 山村の魚類の採取・同定 12. 山村のほ乳類の観察・同定 13. 山村のほ乳類の観察・同定 14. 山村のほ乳類の観察・同定 15. 山村のほ乳類の観察・同定						
テキスト参考書	随時プリント配布，日本の昆虫1400①② 文一総合出版，フィールドガイド日本のチョウ 誠文堂新光社						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項	時間変更になる場合もあるので掲示に従うこと						

科 目		担当者(○主担当)					
野生動物管理概論		○ 川尻秀樹 原島幹典 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	持続可能な林業を実現するには野生鳥獣による林業被害を理解し、その対策をどのように実施すべきかフィールドから学ぶことが重要で、その基礎的知識を身につけることを目的とする。						
概 要	野生鳥獣による森林被害は植栽した苗木の食害、保育期における立木被害、成熟期における樹皮剥ぎや営巣利用など多岐にわたるが、この授業では主にニホンジカとツキノワグマに焦点をあてて、被害実態と対策を学ぶ。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般的な野生鳥獣による被害実績とその対策 2. 狩猟鳥獣と有害鳥獣 3. 森林に被害をもたらすニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンノウサギ、ノネズミ類 4. 農作物に被害をもたらすイノシシ、ニホンジカ、外来鳥獣 5. 岐阜県内の野生鳥獣の生息現況と対策 6. 森林研究所における森林被害調査の取り組み 7. 岐阜大学 野生動物管理学研究センターの取り組み 8. 現地実習による野生鳥獣の理解 						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	出席と現地演習、レポート						
関連する資格							
注意事項	現地実習時には野外活動に支障のない服装・装備						

科 目		担当者(○主担当)					
クレーン・玉掛け技能		○ 川尻秀樹					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業の現場では様々な資格が必要となるが、伐採した丸太を集材したり、木材を引き寄せたり、原木を積み込む場面で必要となるクレーンや玉掛けの技能講習を受講する。						
概 要	小型移動式クレーン運転技能（5トン未満）の講義と実習、そして玉掛け技能の講義と自習を受講し、資格取得を目指す。						
項 目	1. 吊り上げ荷重が1トン以上5トン未満の移動式クレーンの運転業務 1. 1 小型移動式クレーンに関する知識 1. 2 小型移動式クレーンの運転のために必要な力学に関する知識 1. 3 原動機及び電気に関する知識・関係法令 1. 4 小型移動式クレーンの運転のための合図・クレーンの運転 2. 吊り上げ荷重が1トン以上のクレーンまたは移動式クレーンで行う玉掛け業務 2. 1 クレーン等に関する知識 2. 2 玉掛けの方法（1）、関係法令 2. 3 玉掛けに必要な力学に関する知識 2. 4 玉掛けの方法（2）、（3） 2. 5 クレーン等の運転のための合図・クレーン等の玉掛け						
テキスト 参考書	法定テキスト 技能講習にかかる経費は個人負担						
事前履修科目							
評価方法	資格取得						
関連する資格	小型移動式クレーン運転技能講習修了証、玉掛け技能講習修了証						
注意事項	小型移動式クレーン運転技能講習終了後に玉掛け技能講習を実施。 この科目日程で受講できず、別に資格取得した場合は、その証明を持参すれば別途単位認定する						

科 目		担当者(○主担当)					
林業再生課題研究ゼミ		○ 横井秀一 川尻秀樹 / 杉本和也 / 池戸秀隆					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	課題研究を進める方法、そのために必要なスキルを知り、2年生時に行う課題研究に向けての意識を高める。						
概 要	2年生の課題研究ゼミの一部に参加し、課題の設定、研究計画の立案、進捗管理、研究のまとめ方、発表の仕方など、課題研究をするうえで必要な様々なスキルを身に付ける。同時に、ものごとの考え方を知るとともに、関連分野の知見を深めることも期待する。						
項 目	1. 課題設定の仕方 2. 研究計画の立て方 3. 研究の進め方 4. 研究のまとめ方 5. 発表の仕方						
テキスト 参考書	参考書：「わかりやすい説明の技術」「わかりやすい表現の技術」「これから学会発表する若者のために」						
事前履修科目							
評価方法	授業中の態度（発表を聞く姿勢、質問などを含めた議論に望む姿勢）						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニケーション・ワークショップ		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	社会に何かを提案したり、誰かのために何かをつくったり、「自分のシゴト」をしたりしていくために必要な、相手と自分の気持ちを聴く力と表現する力を養います。						
概 要	1対1や、グループでのロールプレイの中で、主体となったり、観察する側となることで主観的、客観的に自分の発言や気持ち、その言葉に対する反応に気づくためのショートプログラムを3日間連続で行います。						
項 目	扱う内容の予定（その場の状況や反応に合わせて担当講師が展開していくため以下はあくまで予定です。） ○心と身体のストレッチ ○気持ちを聴く ○「きく」と「ききいれる」 ○気持ちを表現する ○自分の発言をチェックする ○様々なコミュニケーションのスタイル ○コミュニケーション内での気持ちの変化のプロセスの観察 ほか						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、授業態度から総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	1日目、2日目の授業終了後、共同で夕食を作って食べながら、1日のふりかえりや講師との個別の質疑応答の時間をつくります。（希望者のみ）						

科 目		担当者(○主担当)					
地域調査法演習		○ 柳澤直 嵯峨創平					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	地域活性化をはかる上で欠かせない、地域の基礎的な情報と特性を調査する手法を習得することを演習の目的とする。						
概 要	本演習では、対象とする地域について、自然科学・社会科学の基本的な調査手法を学んだのちに、岐阜県内の集落ないし地域をモデルにして現地調査を行い、地域の概要を把握する。						
項 目	1. 基礎資料の収集と調査企画 2. 自然環境調査の基礎 3. 社会経済調査の基礎 4. 調査結果のまとめと報告						
テキスト 参考書	画でみる地形・地質の基礎知識（鹿島出版会） まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門（朝倉書店）						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
山里に伝える ～聞き書き～		○ 原島幹典 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	県内の山村地域を訪ね、「山里の聞き書き」活動を行う。聞き書き作品を作成し、発表会において話し手にお返しすることで、山里（そこに暮らす人々）の魅力や価値を地域の人たちに伝える。						
概 要	活動の結果として、地域の人自身が、山里の暮らしや自分の人生について、考え直してゆくプロセスに立ち会うことになる。「山里の聞き書き」の実践編。						
項 目	1. 講義 「山里の聞き書き」の方法 2. 山里訪問 （再聞き取り） 3. 聞き書き作品作り 4. 読み合わせ会 5. 加筆、修正 6. 発表会、交流会						
テキスト 参考書	山里の聞き書き(山里文化研究所編)						
事前履修科目	山里に聞く						
評価方法	出席、作品提出と発表						
関連する資格							
注意事項	I Cレコーダー等録音機器、デジタルカメラの持参推奨						

科 目		担当者(○主担当)					
里山を考える		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	里山を利用し、持続可能な社会を形成するために必要な最新の知見を幅広い分野で吸収するために文献の講読を行うことを目的とする。						
概 要	持続可能な社会の実現に向けて、里山は人と自然の理想的な関わり合い方の一例として注目を集めている。しかし、現実の里山は放棄され利用が進んでいない。本授業ではセミナー形式で、里山の自然や新しい利用に関する文献を幅広く扱い、里山への理解を深め、問題の解決につながるような議論を深める。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 里山の自然環境に関する文献の講読 2. 里山の利用に関する文献の講読 3. 持続可能な社会の形成に関する文献の講読 4. 里山の文化的価値に関する民俗学的・社会学的な文献の講読 5. その他里山や持続可能な社会に関する文献の講読 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
山村づくりゼミ1		○ 原島幹典 ／ 嵯峨創平 ／ 柳澤直 ／ 津田格 ／ 玉木一郎					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	学生と教員が一堂に会し、学生の報告をもとに専門分野を横断した議論を行うことで、将来設計に向けた考え方を広げ、課題研究計画の表現ができるようにする。						
概 要	選択テーマに即した報告、議論、調査、演習等						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年生の課題研究テーマ発表会を聞き、視点を広げ、関心を深める。 2. 夏休みに実践したいことを宣言し、夢や将来に現実性を持たせる。 3. 2年生の課題研究プレゼンを聞き、研究の進め方や、論証の方法を学ぶ。 4. 1年間の学びを振り返り、2年次の研究テーマとその先の将来像を描く。 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、指定された場での発表						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
地域生活実習1 (基礎)		○ 原島幹典 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山村地域における伝統的な生活技術は、地域の風土、歴史の中で、人々の願いや、創意工夫により修練された日本人の文化的成果である。その価値を理解し、継承の意義や方法を考えることを目的とする。						
概 要	山村地域で暮らすために必要となる「しごと」を、地域の方に習いながら体験的に理解し、持続可能な地域社会を支えてきた、生活技術の基礎と田舎暮らしの作法を学ぶ。						
項 目	田起こし、田植え、茶畑管理、畔の草刈り、道普請、棚田の管理、薪の生産、ワサビ田管理、稲刈り取り、雪はき、雪下ろし、他。						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項	実習一般（コードNo.1）						

科 目		担当者(○主担当)					
動物同定実習		○ 玉木一郎 津田格 / 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山林には樹木以外にも多くの生物が生息している。生物多様性に配慮しながら山林を利活用していくうえで、それらの生物を発見・同定する能力は必要不可欠である。						
概 要	本科目では、昆虫類・魚類・ほ乳類などの発見・採取・同定方法を学ぶ。また、危険生物の種類とその対処についても学ぶ。						
項 目	1. 山村の危険生物とその対処 2. 山村の昆虫類の採取・同定 3. 山村の昆虫類の採取・同定 4. 山村の昆虫類の採取・同定 5. 山村の昆虫類の採取・同定 6. 山村の昆虫類の採取・同定 7. 山村の魚類の採取・同定 8. 山村の魚類の採取・同定 9. 山村の魚類の採取・同定 10. 山村の魚類の採取・同定 11. 山村の魚類の採取・同定 12. 山村のほ乳類の観察・同定 13. 山村のほ乳類の観察・同定 14. 山村のほ乳類の観察・同定 15. 山村のほ乳類の観察・同定						
テキスト参考書	随時プリント配布, 日本の昆虫1400①② 文一総合出版, フィールドガイド 日本のチョウ 誠文堂新光社						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項	時間変更になる場合もあるので掲示に従うこと						

科 目		担当者(○主担当)					
樹木生理学		○ 玉木一郎					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	固着性である樹木にとって、周囲を取り巻く環境はきわめて重要な要素である。樹木の体の仕組みと働きを知ることに加え、樹木とはどのような生物で、どんな環境のなかで、どのように生育しているのかを理解することが重要である。						
概 要	本科目では、まず全生物の中のどこに植物が位置づけられているのかを理解する。さらに光合成の仕組み、植物と水の関係、植物の発生、種子の発芽生理、優性・無性生殖、林木育種の基礎などについて学ぶ。						
項 目	1. 生物の系統分類と植物 2. 植物の生活形と生活環 3. 植物の体の構造1 4. 植物の体の構造2 5. 植物と水 6. 植物と光 7. 植物ホルモン 8. 光合成 9. 植物の成長 10. 環境適応 11. 植物の有性生殖と無性生殖 12. 植物の繁殖戦略 13. 植物の系統地理学 14. 林木育種 15. 地域性種苗						
テキスト 参考書	随時プリント配布、植物生態学 朝倉書店、植物用語辞典 八坂書房、樹木生理学 化学同人、植物の生命科学入門 培風館、樹木環境生理学 文永堂出版						
事前履修科目	森林生態						
評価方法	出席・レポート・試験						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林調査法		○ 津田格 柳澤直 / 玉木一郎 / 横井秀一					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	森林管理、施業計画を立てる際に、その森林の状況を把握することは重要である。本科目ではその調査方法を習得するとともに、その実習を通して、森林の植生（構成樹種、階層構造など）や立地条件を理解することを目的とする。						
概 要	森林調査において用いられる各種の調査法（コドラート法、ベルトトランセクト法など）を実際にいくつかの森林において実施することにより、その技術を習得する。樹幹解析も行う。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人工林の調査、林分材積の評価（コドラート法） 2. 常緑広葉樹林の調査（コドラート法） 3. 落葉広葉樹林の調査（コドラート法） 4. 落葉広葉樹林、アカマツ林の調査（ベルトトランセクト法） 5. 樹幹解析 6. データ解析、まとめ 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林生態		○ 柳沢直					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	現代社会において重要な地球環境問題や、森林を整備する現場、木を素材に生産を行う場合それぞれにおいて必要である樹木や森林生態系についての基本的な知識を習得し、森林の多面的機能の理解につなげることを目的とする。						
概 要	生物について興味を持つことのできるような話題で、生態学の基礎を学んだのちに、森林という生態系を深く理解するための基本的な知識について講義する。単に木材生産だけでなく、生物多様性の喪失、地球温暖化や土砂災害など森林を取り巻く様々な問題について包括的に理解できる体系的な学習を目指						
項 目	1. 生態学とは 2. 環境と生物の関わりについて 3. 個体群について 4. 生物群集について 5. 生態系について 6. 植物の分類について 7. 群落の分布について 8. 生物地理学について 9. 植生遷移について 10. 林野土壌について 11. 生物間相互作用について 12. まとめ						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席、試験						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
森林立地		○ 柳澤直					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	森林の立地について、地質学・地形学・土壌学等の分野の知識を織り交ぜながら、立地の背景にある様々な現象について理解し、森林管理・造林・造園などの現場での確に状況を判断し、知識を応用できるようになることを目指す。						
概 要	日本列島の地質的特徴や、地形など森林の立地に関する基礎的な知識について学習した後、地質と地形、森林植生との関係について、実際に天然林を踏査しながら解説する。また、森林植生や林木の生長に密接に関連する森林土壌についても、野外にて土壌断面の作成・記載方法等について実習を行う。						
項 目	1. 気候と立地について（温量指数・植生帯について） 2. 気象と立地について（積雪・霜害・台風など立地環境と関係する気象について） 3. 地質について（地質学の基礎・岩石の生成について） 4. 地質について（表層地質） 5. 地形について（地質との関係・地形の形成など） 6. 土壌について（土壌学の基礎：森林土壌の理学的性質） 7. 土壌について（土壌分類・土壌地理について） 8. 土壌について（林野土壌の形成過程や地形・地質との関係） 9. 植生について（地質・地形・土壌と植生の関係） 10. 森林立地調査法について 11. 森林立地と樹木の分布・更新について 12. 森林立地と天然林の分布について 13. 森林立地と造林について（地位指数等）						
テキスト参考書	森林立地調査法（博友社） 森林土壌の調べ方とその性質（林野弘済会）						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
哺乳類・鳥類		○ 柳澤直 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	人と野生生物との共存のため、野生生物に配慮した管理を行う必要がある。一方、シカ・クマ・サルなどによる農林業被害も起こっている。以上から、野生生物保護管理に関する基本的な考え方を養うことを目的として授業を行う。						
概 要	哺乳類と鳥類を取り上げ、分布や生態、保全等についての基本的な内容を取り扱う。さらに、農業や林業における獣害の実態とその対策についても解説を行う。それらの内容を通じて野生生物保護管理に関する基本的な考え方を養う。また、絶滅のおそれのある哺乳類・鳥類とその保護問題についても言及する。						
項 目	1. 哺乳類の生態等 2. 農林業被害の現状及びそれを及ぼす哺乳類の特徴 3. 野生生物保護管理の考え方 4. 外来種による生物多様性への影響 5. 鳥類の生態等 6. 鳥類の野外調査法 7. 絶滅のおそれのある哺乳類・鳥類と保護問題						
テキスト 参考書	「鳥類生態学入門」山岸哲編著（築地書館）						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
林産物実習 (秋冬編)		○ 津田 格					
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林産物のうち、きのこ、山菜、薬用植物、木の実、精油、樹皮、特用樹、薪炭などは特用林産物と呼ばれる。特用林産物は地域の風土と結びついた物が多く、それらについて知ることはその地域の文化を理解する上で重要である。						
概 要	本科目では様々な特用林産物のなかでも、特に秋に発生する有用な菌根性きのこ、木材腐朽性きのこについて、その利用や増産技術を習得する。木材腐朽性きのこの基礎的な栽培技術についても習得する。きのこ以外の特用林産物についても、触れる。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野生きのこ販売の見学（高山市） 2. 秋に発生する野生きのこの採集と同定（ブナ・ミズナラ林、カラマツ林） 3. 秋に発生する野生きのこの採集と同定（コナラ・アカマツ林） 4. 野生きのこからの菌株分離技術 5. 木材腐朽菌の栽培技術（培地の調整、種菌の培養、植菌） 6. きのこ以外の特用林産物の生産技術 <p>内容、時間についてはきのこの発生状況等に応じて変更する可能性がある。</p>						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
エコミュージアム概論		○ 嵯峨創平					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	エコミュージアムの概念を手がかりに、農山村の環境や文化を資料化・資源化する方法と、持続可能な地域デザインを進め方と課題について講義と実習を通して学ぶ。						
概 要	農山村の衰退に伴って日本の多くの地域で自然環境の荒廃や文化資源の消失が問題となっている。本授業では、フランスで生まれたエコミュージアムの概念を手がかりに、持続可能な地域づくりとは何かを考えていく。						
項 目	○博物館概念の発達とエコミュージアムの誕生 ○エコミュージアムの組織・運営の特徴 ○農山村（中山間地域）の課題と住民組織の取り組み ○エコミュージアムにみる地域資源調査法 ○日本におけるエコミュージアムの展開事例 ○日本におけるエコミュージアム活動の課題 ○フィールドワーク～エコミュージアムの視点で地域をみる						
テキスト 参考書	随時プリントを配付する。参考書：大原一興「エコミュージアムへの旅」						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポートなど						
関連する資格							
注意事項	一部を文化的景観論（2年生科目）と合同で実施する。						

科 目		担当者(○主担当)					
ファシリテーション入門		○ 嵯峨創平 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	地域づくりの現場で使えるファシリテーションの基礎的な知識と手法を身に付けることを目的に、ワークショップ（参加型学習）形式で学ぶ。						
概 要	地域づくり集会・体験学習の場・会議などのグループワークを活性化し、創造性を生み出すコミュニケーション技術であるファシリテーションの基礎技術のいくつかを4回にわたって学ぶ。条件が整えばゲスト講師も招く予定。						
項 目	○ファシリテーションとは何か／その応用場面の広がり ○ワークショップの構造とファシリテーターの役割 ○場づくりの技術（アイスブレイクなど） ○伝える技術（KP法） ○記録の技術（ファシリテーション・グラフィック） ○対話の技術（即興的ストーリーテリング） ○企画の技術（ブレインストーミングとKJ法）						
テキスト 参考書	授業時にプリント配布。参考書：中野民夫「ファシリテーション革命」、津村俊允「人間関係トレーニング」、「インタープリター・トレーニング」ほか						
事前履修科目	出席、参加態度で総合的に評価。						
評価方法	出席、参加態度で総合的に評価する。						
関連する資格							
注意事項	遅刻しないこと。						

科 目		担当者(○主担当)					
チェーンソー・刈払い機入門		○ 原島幹典 ／ 杉本和也 ／ 川尻秀樹 ／ 横井秀一 ／ 池戸秀隆					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	林業をはじめ、農業、造園業等でも広く現場で使用されている動力機械（チェーンソーと刈払い機）について、初心者を対象として、安全に関する知識と正しい操作方法を知る。						
概 要	チェーンソー、刈払い機取扱い作業者に対する安全衛生教育カリキュラムにのっとり、基本的な取扱い技術とメンテナンスを学ぶ。						
項 目	<チェーンソー> (学科) 1. 伐木作業に関する知識 2. チェーンソーに関する知識 3. 振動障害及びその予防に関する知識 4. 関係法令 (実技) 5. チェーンソーの操作 6. 伐木・造材作業の基礎技術 7. チェーンソーの点検及び整備 <刈払い機> (学科) 1. 刈払機に関する知識 2. 刈払機を使用する作業に関する知識 3. 刈払機の点検及び整備に関する知識 4. 振動障害及びその予防に関する知識 5. 関係法令 (実技) 6. 刈払い機の作業等						
テキスト参考書	林業労働災害防止協会発行「伐木作業安全衛生必携」、「刈払機取扱作業必携」						
事前履修科目							
評価方法	出席全課程出席者のみ修了証を交付						
関連する資格	労働安全衛生法（抄）59条に基づく安全衛生教育修了証交付						
注意事項	実習一般（コードNo.1）						

科 目		担当者(○主担当)					
都市農山村交流実習1		○ 原島幹典					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	過疎高齢化に悩む山間地域の活性化策として、各地で取り組まれている都市住民との交流活動について、その現状と課題を認識し、今後の展望について、全員で議論し、考える。						
概 要	エコツアー・農林業体験・農家民泊・棚田オーナー制度・森林ボランティアなど、都市農山村交流事例を調査し、受け入れ側に立ち、交流現場に直接関わる。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市農山村交流への社会的背景とその意義 2. 都市農山村交流についての事例調査、具体的活動への参加、調査 3. 参加活動における課題と対応策、今後の展望について全員討議 4. 今後の活動に向けての改善策等を考える（レポート） 						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	見学（山林）（コードNo.5）						

科 目		担当者(○主担当)					
山村活性化事例研究1		○ 嵯峨創平 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	農山村の活性化に効果を上げている地域事業について学びつつ、地域活性化事業を事例研究（ケーススタディ）する視点と方法論について学ぶ。						
概 要	1,2年生合同のチームを編成し、学年により役割を分担しながら、対象事例のポイントとなる要素を把握し記述するグループワーク方式の事例研究法を実施する。事業タイプの異なる事例を訪ねて、年4回実施する予定。						
項 目	○事例研究（ケーススタディ）とは ○ケーススタディの視点（立地条件、事業形態、人的資源、商品開発、販売促進など） ○ケーススタディのまとめ方（地図、年表、図表、経営分析、ポイント抽出など） ○山村の活性化事業を訪ねて学ぶフィールドワーク						
テキスト 参考書	参考書：小田切徳美編(2013)「農山村再生に挑む」、佐々木雅幸編(2014)「創造農村」、望月達史(1995)「地域経営の知恵」ほか						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポートなど。						
関連する資格							
注意事項	山村活性化事例研究2（2年生科目）と合同で実施する。						

科 目		担当者(○主担当)					
地域計画法演習		○ 嵯峨創平 柳澤直					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	対象地域について地域調査法やファシリテーション技術を用いながら課題を抽出し、その解決に向けた計画提案をする。地域計画法の基礎的なサイクルを理解する。						
概 要	本年度は、美濃市蕨生地区を対象に「和紙の里」の活性化を目標とする地域計画実習を行う予定。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象地域の基礎情報を把握する 2. 対象地域の歴史文化や人間関係を理解する 3. 対象地域の課題を抽出する 4. 対象地域の課題解決に向けたプロセスを考える 5. 計画案を作成提案する 						
テキスト 参考書	資料プリントを随時配布する。参考書：西村幸夫編「まちの見方・調べ方～地域づくりのための調査法入門」						
事前履修科目	地域調査法演習						
評価方法	出席、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
パーマカルチャー実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森からはじまる持続可能な暮らしを提案していく学校・森林文化アカデミー」の学生としては欠かせない持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」の基本的な理念と技術を学びます。						
概 要	1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」のアイデアをもとに、実際にアカデミー内の空間をデザインし自らの手で作り上げ、その後も維持管理、観察を続けることでパーマカルチャーの理念を体験的に学んでもらいます。						
項 目	<p>年ごとにメインテーマは異なるため多少の変動はありますが基本的に以下のよう内容に触れながら授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーマカルチャーとは ○ パーマカルチャーが生まれた理由とこれからの課題 ○ 基本理念 ○ 空間とは ○ 自然の原理 ○ デザインする ○ 土壌と植物の関係 ○ チームでの作業 ○ 観察 ○ 考察 ○ ふりかえり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度をもとに評価します。						
関連する資格							
注意事項	1泊2日の合宿形式の授業となる予定です。						

科 目		担当者(○主担当)					
野生動物管理概論		○ 川尻秀樹 原島幹典 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	持続可能な林業を実現するには野生鳥獣による林業被害を理解し、その対策をどのように実施すべきかフィールドから学ぶことが重要で、その基礎的知識を身につけることを目的とする。						
概 要	野生鳥獣による森林被害は植栽した苗木の食害、保育期における立木被害、成熟期における樹皮剥ぎや営巣利用など多岐にわたるが、この授業では主にニホンジカとツキノワグマに焦点をあてて、被害実態と対策を学ぶ。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般的な野生鳥獣による被害実績とその対策 2. 狩猟鳥獣と有害鳥獣 3. 森林に被害をもたらすニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンノウサギ、ノネズミ類 4. 農作物に被害をもたらすイノシシ、ニホンジカ、外来鳥獣 5. 岐阜県内の野生鳥獣の生息現況と対策 6. 森林研究所における森林被害調査の取り組み 7. 岐阜大学 野生動物管理学研究センターの取り組み 8. 現地実習による野生鳥獣の理解 						
テキスト参考書	配付資料						
事前履修科目							
評価方法	出席と現地演習、レポート						
関連する資格							
注意事項	現地実習時には野外活動に支障のない服装・装備						

科 目		担当者(○主担当)					
里山プロジェクト実習		○ 柳澤直 津田格 / 玉木一郎					
授業方法	実習	開講時期	1年後期・2年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	昭和30年代から利用が停止することにより、質的な変化を生じている里山の自然を再び利用するために、様々な里山利用、保全活動の先進的な現場を見学し、調査することによって新しい里山の利用や保全について提案する。						
概 要	里山のバイオマス利用や、竹林の利用、そして里山に生育する絶滅危惧種の保全活動を行っている現場を訪問し、それぞれの活動に参加すると共に、利用の現場での里山の変化について科学的調査も行うことによって、利用と保全の結びつきについて学び、新しい里山利用の可能性についても検討する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 里山のバイオマス利用について 2. 里山林の伐採地の生物相の調査 3. 竹林の利用に関する調査と竹林伐採の見学 4. ほだ木・薪等の生産現場の見学 5. 薪炭林の生物相調査 6. 粗朶山と粗朶を使った河川工事の見学 7. 生物保全活動の現場の見学 <p>※見学、活動内容は相手先活動団体の都合等により、変更する場合があります。</p>						
テキスト参考書	エコロジーガイド里山の自然（保育社）						
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
地域プロジェクト実習		○ 原島幹典					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	対象地域、対象事業の活動に参画しながら、地域の活動をマネジメントする視点で記録し、企画運営する実践力を身に付けることを目標とする。						
概 要	対象地域事例について、その主催者と共に、活動の企画、運営、評価、改善を、PDCAの手法にのっとり実践する。						
項 目	水源地域の森林空間や、里山資源を活用した活動への参画。						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、指定された場での発表						
関連する資格							
注意事項	実習一般（コードNo.1）						

科 目		担当者(○主担当)					
救急法講習		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	日常生活のみならず、アカデミーが網羅する全ての現場において危険はすぐ隣り合わせにあり、中には特殊な状況下のものも多く含まれます。一社会人としてそれらに対して積極的に対応できるよう基本技術を学びます。						
概 要	基本的な救急法講習に加え、林業、ものづくり、建築、山村づくり、環境教育、それぞれの現場で起きやすい特殊な状況下での対応方法を、知識や技術を吸収する日と、忘れかかった頃にシュミレーション状況下でチームで対応してもらう日との2日間で体験的に技術や考え方を習得してもらいます。						
項 目	<p>基本的に以下の項目に触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な心構え（救急法とは） <input type="checkbox"/> 心肺蘇生 <input type="checkbox"/> 止血法 <input type="checkbox"/> やけど <input type="checkbox"/> 搬送法 <input type="checkbox"/> 日射病・熱射病 <input type="checkbox"/> パニック・過呼吸 <input type="checkbox"/> 安全体位 <input type="checkbox"/> 各種症状 <input type="checkbox"/> 危険な生物 <input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> 連絡方法 <input type="checkbox"/> 身近な道具を使った技術 <input type="checkbox"/> シュミレーション・トレーニング ほか 						
テキスト参考書	「救急法ハンドブック」を受講時に購入してもらいます（100円程度）						
事前履修科目							
評価方法	出席や授業態度など総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	当日は動きやすい服装で来てください。 また、テキスト代として100円程度を当日持参してください。						

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニケーション・ワークショップ		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	社会に何かを提案したり、誰かのために何かをつくったり、「自分のシゴト」をしたりしていくために必要な、相手と自分の気持ちを聴く力と表現する力を養います。						
概 要	1対1や、グループでのロールプレイの中で、主体となったり、観察する側となることで主観的、客観的に自分の発言や気持ち、その言葉に対する反応に気づくためのショートプログラムを3日間連続で行います。						
項 目	扱う内容の予定（その場の状況や反応に合わせて担当講師が展開していくため以下はあくまで予定です。） ○心と身体のストレッチ ○気持ちを聴く ○「きく」と「ききいれる」 ○気持ちを表現する ○自分の発言をチェックする ○様々なコミュニケーションのスタイル ○コミュニケーション内での気持ちの変化のプロセスの観察 ほか						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、授業態度から総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	1日目、2日目の授業終了後、共同で夕食を作って食べながら、1日のふりかえりや講師との個別の質疑応答の時間をつくります。（希望者のみ）						

科 目		担当者(○主担当)					
フィールドワーク1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	インタープリターや自然体験指導者など、自然と人をつなぐ活動をしていく上で必要な「自然の見方(視点)」を身近な動植物の観察や記録を通して学びます。						
概 要	アカデミーの敷地内(演習林含む)を主なフィールドに自然体験活動をしていく中で、動植物の観察や記録を続け、身近な植物や動物の季節変化や自然を様々な角度から見ていくことの重要性に気づいてもらいます。						
項 目	<p>以下のことについて触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> なぜフィールドワークが必要か <input type="checkbox"/> フィールドワークに使う道具 <input type="checkbox"/> フィールドでのマナー <input type="checkbox"/> フィールドワークの視点 <input type="checkbox"/> 観察・記録方法 <input type="checkbox"/> 図鑑での調べ方 <input type="checkbox"/> 自然を観察する際のポイント <input type="checkbox"/> 予測して自然を見る <input type="checkbox"/> 記録を活用する 						
テキスト 参考書	授業内で適宜紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・成果物などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	レンタルも可能ですが、自分のフィールドノート、図鑑、観察用具(双眼鏡、ルーペ等)があると便利です。(授業内で紹介)						

科 目		担当者(○主担当)					
自然学校・ビジターセンター1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	施設毎に異なる自然学校やオルタナティブスクール、ビジターセンターなどの特徴や現状について知ると同時に、この業界で活動するためのイメージを養い、今後の自らの活動展開の参考にしてもらいたいと思います。						
概 要	全国に広がる自然学校やビジターセンター、オルタナティブスクールなどを実際に訪れ、担当者から現場の様子や活動内容についてのお話を伺ったり、活動の中で大切にしている手法やその場の力など、現場を訪れないと分からないことを学生自らの感覚を駆使して学んでもらいたいと思います。						
項 目	<p>この実習を通して以下のことについて現場から学びとってもらいたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自然学校／ビジターセンター／オルタナティブスクールとは <input type="checkbox"/> それぞれの施設の役割 <input type="checkbox"/> 施設の特徴、多様さ <input type="checkbox"/> 活動内容 <input type="checkbox"/> スタッフの仕事の内容 <input type="checkbox"/> 展示や活動プログラム <input type="checkbox"/> 利用者の視点 <input type="checkbox"/> 自らの興味やスキルを活かすには ほか 						
テキスト参考書	授業内で適宜紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	施設の見学料や、宿泊を伴う場合には、食事や宿泊費の実費が別途かかることがあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
環境教育施設組織経営論1 (基礎編)		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自然学校やオルタナティブスクール、子どもに関する活動の第一線で活躍しているプロの方から、生き方や哲学、運営のノウハウ、現状と課題を聴くことで、将来の自分のシゴト感や具体的イメージを構築するための貴重な時間で						
概 要	自然学校やオルタナティブスクール、子どもに関する活動現場で活躍するプロを直接訪れるかあるいはアカデミーにお招きして、ゆっくりとお話を伺ったり、質疑応答や議論をしたり、あるいはワークショップスタイルで展開したりとその場に合わせたスタイルで進めていきます。						
項 目	<p>本授業を通して以下のことについて感じ、考え、学びへとつないでいくと共に自らの卒業後のイメージを構築してもらいます。また、ゲスト講師からより多くの学びを引き出すことにも挑戦してもらいたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 多様な運営形態 <input type="checkbox"/> 「思い」の重要性 <input type="checkbox"/> この業界でシゴトをするということ <input type="checkbox"/> 感覚的な部分 <input type="checkbox"/> なぜその組織や活動が現代社会の中でうまくいっているのか <input type="checkbox"/> 自分と異なる視点は何か <input type="checkbox"/> 今の自分になにが必要か <input type="checkbox"/> 自分らしいシゴトのデザイン 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	現地を訪れる際に、宿泊費や食費実費がかかる場合があります。また、授業内では聴けなかった更に深い話をするために放課後に夕食をとりながら学び合いやふりかえりの時間を設けることもあります(希望者)。						

科 目		担当者(○主担当)					
動物同定実習		○ 玉木一郎 津田格 / 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	山林には樹木以外にも多くの生物が生息している。生物多様性に配慮しながら山林を利活用していくうえで、それらの生物を発見・同定する能力は必要不可欠である。						
概 要	本科目では、昆虫類・魚類・ほ乳類などの発見・採取・同定方法を学ぶ。また、危険生物の種類とその対処についても学ぶ。						
項 目	1. 山村の危険生物とその対処 2. 山村の昆虫類の採取・同定 3. 山村の昆虫類の採取・同定 4. 山村の昆虫類の採取・同定 5. 山村の昆虫類の採取・同定 6. 山村の昆虫類の採取・同定 7. 山村の魚類の採取・同定 8. 山村の魚類の採取・同定 9. 山村の魚類の採取・同定 10. 山村の魚類の採取・同定 11. 山村の魚類の採取・同定 12. 山村のほ乳類の観察・同定 13. 山村のほ乳類の観察・同定 14. 山村のほ乳類の観察・同定 15. 山村のほ乳類の観察・同定						
テキスト参考書	随時プリント配布, 日本の昆虫1400①② 文一総合出版, フィールドガイド 日本のチョウ 誠文堂新光社						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項	時間変更になる場合もあるので掲示に従うこと						

科 目		担当者(○主担当)					
自然体験実習		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	環境教育や自然体験活動の指導者にとって欠かせない自然の中での「原体験」を改めて体験してもらうことで指導者として重要な感覚を身体の中に呼び起こすと共に原体験の重要性に気づいてもらいます。						
概 要	アカデミーの演習林や周辺地域の自然の中でたった一人で過ごして感覚を研ぎ澄ませたり、自然と自分とのつながりに気づいたりするための様々な体験を通して学びのねらいを達成してもらいます。						
項 目	<p>以下のような項目を体験することで自然との距離を縮めてもらいます。 (あくまで代表例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一晩中森の中でひとりで過ごす ○ 森の住人(小さな虫からほ乳類まで)との出会い ○ 裸足で過ごす ○ 大地に寝そべる ○ 日の出を見る ○ 月夜の森をライトなしで歩く ○ 夜行性の動物を待ち伏せする ○ 昼と夜、夜と朝の生きものたちの入れ替わりを体感する ○ 石だけで一日中遊ぶ ○ シェルターをつくる ○ 五感・六感を研ぎ澄ます ○ 森の中での瞑想 ほか 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	暗さや孤独などに対するパニック症状や、各種アレルギー症状をお持ちの方は事前に担当教員に相談して下さい。						

科 目		担当者(○主担当)					
自然体験プログラム実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	環境教育や自然体験の現場でよく使われるアクティビティ（プログラム）を対象者や状況に合わせて適切に提供できるようになることがねらいです。2年目（応用編）はより多くのアウトプット（指導実践）が期待されます。						
概 要	代表的なアクティビティ（プログラム）の数々を体験した後、実際に誰かを対象に自分が指導してみる経験を繰り返すことで、それぞれのアクティビティの特徴や指導する際の注意点などを習得してもらいます。						
項 目	<p>以下がこの授業で触れていく項目です（あくまで予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プログラム体験 ネイチャーゲーム／プロジェクトワイルド アースエデュケーション／他各種定番プログラム ○ プログラム実践 体験したプログラムを幼児から大人まで様々な年齢を対象に実践 ○ プログラムのアレンジ（対象者や自分に合わせていく） ○ プログラムのメリット・デメリットに気づく ○ オリジナルのプログラムづくり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業内態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	プログラム実践のために時には週末（休日）に授業をすることもあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
インタープリテーション実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	見えないものを見る化し、物事の背景にあるメッセージを効果的に伝える手法としてアメリカの国立公園で発展した「インタープリテーション」の技術や理念を習得し、自分なりのスタイルを構築することを目的としています。						
概 要	自然観察会、エコツアーイベント、自然教室、生涯学習講座、プレイパークや森のようちえんなどの現場でホンモノの参加者を対象としたインタープリテーションプログラムを提供する経験を繰り返し技術を磨いていきます。2年目にはより自分らしいスタイルを構築していくことに力を入れてもらいます。						
項 目	<p>以下のことについて触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インタープリテーションとは ○ インタープリテーションの原則 ○ 多様なスタイルを知る ○ インタープリテーションを構成するもの ○ 人前で話す時のポイント ○ ツアーやグループ（集団）を扱う時のポイント ○ 自分の癖を理解する ○ インタープリテーションの企画と実践 ○ フィードバックと改善 ○ ふりかえり 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	実践のために時には週末（休日）に授業をすることもあります。						

科目		担当者(○主担当)					
自然体験活動指導実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	120	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="checked" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目的	自然体験活動を指導するために必要な現場での知識や技術、そして対象年齢や状況毎に異なる「学びのうながし方」ができるようになるための感覚を磨きます。						
概要	森のようちえん、プレーパーク、小学校への出前授業などの現場を活用して異なる年齢、状況の中での自然体験活動指導とその後のフィードバックやふりかえりを繰り返し経験することで知識、技術、感覚を養います。						
項目	<p>以下の項目を主なテーマに体験的に学んでいきます（あくまで一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自然体験の意義 <input type="checkbox"/> 今の子どもたちの現状と課題 <input type="checkbox"/> 子どもたちの観察 <input type="checkbox"/> フッキング（ひきつけ方） <input type="checkbox"/> 自然体験のうながし方 <input type="checkbox"/> 安全管理 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> 子どもたちという時に大切にしたいこと <input type="checkbox"/> プレイワーカーの心構え <input type="checkbox"/> 受け止めと見守り <input type="checkbox"/> 段取り <input type="checkbox"/> 保護者や教員とのコミュニケーション <input type="checkbox"/> ふりかえり など 						
テキスト参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	実践のために時には週末（休日）に授業をすることもあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
IPコースゼミ1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	講義	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	社会の課題を見つけ、それについて議論を重ねていく過程で自分なりの考え方や社会の見方を構築していくことをねらいとしています。2年目は、自分なりの考えについて他者にプレゼンテーションする技術も磨きます。						
概 要	気になること、社会の課題などをテーマに議論やプレゼンテーション、時にはゲストを交えて意見交換をすることで自分なりの考え方を構築し、課題研究(卒論)に向けての準備をしていきます。						
項 目	この授業では以下のようなことについて触れていく予定です。 <ul style="list-style-type: none">○ 社会で起きていること○ それに対する自分の意見○ 課題についてのリサーチ○ 課題解決のための提案○ 自分の意見をまとめる○ 他人の意見を聴く○ 多様な考えや活動に触れる○ 自らの考え方を構築する○ 話し合う など						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	テーマによっては、放課後や休日(祝日)に実施することもあります。						

科 目		担当者(○主担当)					
プログラムデザイン1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	120	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自然体験活動やイベントの企画、広報、準備、運営のために必要な知識や技術を習得することで現場の即戦力として活躍できるだけの力をつけてもらいます。						
概 要	主に夏と冬にアカデミーで小学生向けに行うキャンプをはじめ、自然観察会や生涯学習などのイベントのディレクターとして実際に活動することで、それらを実現するために必要な知識や技術、感覚を繰り返し実践することで習得してもらいます。						
項 目	<p>この授業では以下のようなことについて触れていく予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 活動への思いの共有 <input type="checkbox"/> ねらいやゴールの設定 <input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 広報 <input type="checkbox"/> 準備、段取り <input type="checkbox"/> 子どもに寄り添う企画とは <input type="checkbox"/> ディレクターの役割 <input type="checkbox"/> スタッフとの関係 <input type="checkbox"/> ふりかえり 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介していきます。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度・習熟度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	放課後や休日（祝日）に活動することが多々あります。						

科 目		担当者(○主担当)					
パーマカルチャー実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森からはじまる持続可能な暮らしを提案していく学校・森林文化アカデミー」の学生としては欠かせない持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」の基本的な理念と技術を学びます。						
概 要	1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」のアイデアをもとに、実際にアカデミー内の空間をデザインし自らの手で作り上げ、その後も維持管理、観察を続けることでパーマカルチャーの理念を体験的に学んでもらいます。						
項 目	<p>年ごとにメインテーマは異なるため多少の変動はありますが基本的に以下のよう内容に触れながら授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーマカルチャーとは ○ パーマカルチャーが生まれた理由とこれからの課題 ○ 基本理念 ○ 空間とは ○ 自然の原理 ○ デザインする ○ 土壌と植物の関係 ○ チームでの作業 ○ 観察 ○ 考察 ○ ふりかえり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度をもとに評価します。						
関連する資格							
注意事項	1泊2日の合宿形式の授業となる予定です。						

科 目		担当者(○主担当)					
森のようちえん実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森のようちえん」やその舞台となる森林空間の特徴と可能性について体験を通して感じてもらうと同時に、将来森と関わる人間として重要な「森づくりのための人づくり」のための手法や大切にしたいことを体験的に学びます。						
概 要	アカデミーの演習林で活動している野外自主保育サークル「森のだんごむし」が実施する森のようちえん活動の現場で子どもたちや森と直接向き合う中で目の前で起る事象と活動後のフィードバックから学びを得てもらいます。						
項 目	<p>現場に関わる中で沸き上がる課題や疑問から様々なことを学んでいくためこの実習で触れる項目は多種多様ですが、主に以下のようなことに触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 森のようちえんとは <input type="checkbox"/> 森のようちえんの歴史と現状 <input type="checkbox"/> 森林空間の可能性 <input type="checkbox"/> 森の中で育つ意味 <input type="checkbox"/> 森の特徴 <input type="checkbox"/> 子どもたちを受けとめる、見守るとは <input type="checkbox"/> 自主保育という動き <input type="checkbox"/> 活動を支えているものとは <input type="checkbox"/> 森づくりにつながる人づくり <input type="checkbox"/> 森で活動する上で便利な知識と技術 <input type="checkbox"/> 子どもと遊び <input type="checkbox"/> ふりかえり 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	担当教員に事前に相談の上、参加日を調整してください。一日の参加可能人数の制限あり。参加日は、野外で活動できる服装、弁当、水筒、カッパ（雨天時）、リュックで来てください。						

科 目		担当者(○主担当)					
プレーパーク実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「自分の責任で自由に遊ぶ」がモットーのプレーパークを現場に、子どもに関わる大人として最も対応が難しいとされる「非構成型空間」で自由な遊びをうながす（見守る）ための技術や感覚、大切にしたい考えを磨きます。						
概 要	アカデミー内で開催している「みのプレーパーク」の現場で実際にプレイワーカーとして活動しながら、日々子どもたちとの間で起こることや終了後のふりかえりを通して各自に必要な学びを得て子どもに関わる大人として自らの技術を高めていきます。						
項 目	<p>現場に関わる中で沸き上がる課題や疑問から様々なことを学んでいくためこの実習で触れる項目は多種多様ですが、主に以下のようなことに触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プレイワーカーとは ○ プレーパークの歴史と現状 ○ 自由な遊びの可能性 ○ 「生きる力」を育む ○ 遊びのスタイルと特徴 ○ 子どもたちを受けとめる、見守るとは ○ 自由と安全管理 ○ 活動を支えているものとは ○ なぜ今プレーパークか（社会が求めるもの） ○ プレイワーカーとして必要な知識と技術 ○ ふりかえり 他 						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度などをもとに総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	担当教員に事前に相談の上、参加日を調整してください。参加日は、野外で活動できる服装、カッパ（雨天時）で来てください。						

科 目		担当者(○主担当)					
救急法講習		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	日常生活のみならず、アカデミーが網羅する全ての現場において危険はすぐ隣り合わせにあり、中には特殊な状況下のものも多く含まれます。一社会人としてそれらに対して積極的に対応できるよう基本技術を学びます。						
概 要	基本的な救急法講習に加え、林業、ものづくり、建築、山村づくり、環境教育、それぞれの現場で起きやすい特殊な状況下での対応方法を、知識や技術を吸収する日と、忘れかかった頃にシュミレーション状況下でチームで対応してもらう日との2日間で体験的に技術や考え方を習得してもらいます。						
項 目	<p>基本的に以下の項目に触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な心構え（救急法とは） <input type="checkbox"/> 心肺蘇生 <input type="checkbox"/> 止血法 <input type="checkbox"/> やけど <input type="checkbox"/> 搬送法 <input type="checkbox"/> 日射病・熱射病 <input type="checkbox"/> パニック・過呼吸 <input type="checkbox"/> 安全体位 <input type="checkbox"/> 各種症状 <input type="checkbox"/> 危険な生物 <input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> 連絡方法 <input type="checkbox"/> 身近な道具を使った技術 <input type="checkbox"/> シュミレーション・トレーニング ほか 						
テキスト参考書	「救急法ハンドブック」を受講時に購入してもらいます（100円程度）						
事前履修科目							
評価方法	出席や授業態度など総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	当日は動きやすい服装で来てください。 また、テキスト代として100円程度を当日持参してください。						

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニケーション・ワークショップ		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	社会に何かを提案したり、誰かのために何かをつくったり、「自分のシゴト」をしたりしていくために必要な、相手と自分の気持ちを聴く力と表現する力を養います。						
概 要	1対1や、グループでのロールプレイの中で、主体となったり、観察する側となることで主観的、客観的に自分の発言や気持ち、その言葉に対する反応に気づくためのショートプログラムを3日間連続で行います。						
項 目	扱う内容の予定（その場の状況や反応に合わせて担当講師が展開していくため以下はあくまで予定です。） ○心と身体のストレッチ ○気持ちを聴く ○「きく」と「ききいれる」 ○気持ちを表現する ○自分の発言をチェックする ○様々なコミュニケーションのスタイル ○コミュニケーション内での気持ちの変化のプロセスの観察 ほか						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、授業態度から総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	1日目、2日目の授業終了後、共同で夕食を作って食べながら、1日のふりかえりや講師との個別の質疑応答の時間をつくります。（希望者のみ）						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築計画の基礎		○ 廣田桂子 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木造建築を設計するため、その第一ステップである建築計画の立案から基本設計の手法を習得する。又、建築言語表現の基本である図面一式と模型による計画と設計の説明力をつける。						
概 要	実例を通して人間身体から建築空間を計画するためのスケール感覚、計画アプローチ方法を学び、設計課題を使って地域に根付く木造建築の計画、建築設計を含む提案書づくりを行う。課題は①新築公共建築物の設計計画、②公共建築物の室内木質化計画・設計の2つにより、地域材の活用方法を理解する。						
項 目	1. 地域と木造建築空間 2. 自力の知恵と技術 3. 低炭素建築の特質 4. 設備と自然エネルギーについて 5. 話を聞いて調査・実習1：地域とユーザー 6. 話を聞いて調査・実習2：ステーク・ホルダー 7. 計画実習1 8. 計画実習2 9. ロードマップづくり 10. 計画実習3 11. 計画実習4 12. プレゼン1 13. プレゼン2 14. 話を伝える調査1 15. プレゼン3						
テキスト参考書	「空間と要素をデザインする」F・チン 「地域デザイン」吉阪隆正						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート、図面、模型、プレゼンテーション						
関連する資格	木造建築士2級建築士1級建築士						
注意事項	メジャー、スケッチ・ブック、テクニカル・ペン、クラッチ・ペンシル、トレーシング・ペーパー、カメラ、縮尺定規を持参の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の計画演習		○ 辻充孝					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	設計条件を整理、理解し、敷地を想像しながら設計すると同時に、設定された時間内に考えをまとめ、表現するトレーニングを目的とする。						
概 要	主に木造住宅（建築）の設計を行い、様々なパターン（敷地や家族構成の変化）の条件のもと計画を行う。仮想設計に始まり、最終的には実際の敷地の計画を行う。また、動作寸法や動線計画、自然エネルギー利用などのテーマを講義をもとに計画に反映させる。						
項 目	<p>与えられた敷地に対して、その場で条件を設定し、時間内に計画する。最終的には、15分程度の制限枠の中で計画することを念頭に入れる。</p> <p>【即日課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 即日課題① 長方形敷地での計画 2. 即日課題② 変形敷地での計画 3. 即日課題③ 狭小間口での計画 4. 即日課題④ 広い敷地での計画 5. 即日課題⑤ 自然エネルギーを使用した計画 <p>【連続課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 連続課題① 実際の敷地での計画① 7. 連続課題② 実際の敷地での計画② 自然エネルギーを考慮 8. 連続課題③ 実際の敷地での計画③ 家族形態を考慮 9. 連続課題④ 実際の敷地での計画④ 木造のスパンを考慮 10. 連続課題④ 実際の敷地での計画④ スタディ模型の製作 						
テキスト参考書	随時、プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席、即日課題						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の設計監理法		○ 辻充孝					
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	設計実務で必要になる設計監理の基本を学ぶことを目的とする。						
概 要	基本設計契約から敷地調査、プレゼン、実施設計、工事契約、施工監理と、段階を追って具体的に必要な知識を学習する。						
項 目	<p>木造建築講座の「木造住宅設計監理マニュアル」にそって、各段階での留意点を学習する。</p> <p>【基本設計】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本設計契約、敷地調査、地盤調査 2. 役所調査、プレゼンテーション、第2回打ち合わせ <p>【実施設計】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 設計契約、第3回打ち合わせ、最終打ち合わせ 4. 木材管理1、2、Jパネル等の支給材 5. 現場説明、確認申請、見積もり調整 <p>【施工監理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 解体工事、工事契約、地鎮祭 7. 着工、木配り、プレカット打ち合わせ、基礎工事 8. 給排水衛生工事、電気工事、建て方・上棟 9. 中間検査、金属・サッシ工事、屋根工事、ガラス工事 10. 外壁工事。照明機器の発注、防水工事 11. 左官工事、台所工事、タイル工事 12. 木製建具工事、塗装工事、内装工事 13. 薪ストーブ工事、家具・支給品、美装工事、床塗り工事（セルフ工事） 14. 外構工事、植栽工事、完了検査 15. 引き渡し、清算、登記 						
テキスト参考書	初回時にテキスト配布						
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
パーマカルチャー実習1 (基礎編)		○ 萩原裕作 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「森からはじまる持続可能な暮らしを提案していく学校・森林文化アカデミー」の学生としては欠かせない持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」の基本的な理念と技術を学びます。						
概 要	1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な暮らしのデザイン「パーマカルチャー」のアイデアをもとに、実際にアカデミー内の空間をデザインし自らの手で作り上げ、その後も維持管理、観察を続けることでパーマカルチャーの理念を体験的に学んでもらいます。						
項 目	<p>年ごとにメインテーマは異なるため多少の変動はありますが基本的に以下のよう内容に触れながら授業を進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パーマカルチャーとは ○ パーマカルチャーが生まれた理由とこれからの課題 ○ 基本理念 ○ 空間とは ○ 自然の原理 ○ デザインする ○ 土壌と植物の関係 ○ チームでの作業 ○ 観察 ○ 考察 ○ ふりかえり ほか 						
テキスト 参考書	授業内で紹介します。						
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度をもとに評価します。						
関連する資格							
注意事項	1泊2日の合宿形式の授業となる予定です。						

科 目		担当者(○主担当)																					
木造建築病理学		○ 小原勝彦 吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 津田格 / 非常勤講師																					
授業方法	講義	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択																
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり																						
目 的																							
概 要																							
項 目	<p>【目的】欧米ではBuilding Pathology（建築病理学）という学問分野がある。これは既存建物の不具合や劣化を調査診断して適切な保存・補修方法を提案において重要な役割を果たしている。欧米に比べ日本では住宅の診断業務がビジネスとして十分拡大していないが、今後の建物の高寿命化と性能の確保の必要性から、必要不可欠な技術体系であると考えられる。そこで英国での建築病理学とその関連資格を紹介している中島正夫先生（関東学院大学）監修、日本初の「木造建築病理学」において、これらの知識・技術を修得する。</p> <p>【概要】木造建築改修の体系を学ぶ。</p> <p>【1年前期】</p> <table border="0"> <tr> <td>① 建物の長寿命化の必要性</td> <td>② 建築病理学とは</td> </tr> <tr> <td>③ 耐震調査の目的・内容とその手順</td> <td>④ 各種検査機器と使用法</td> </tr> </table> <p>【1年後期】</p> <table border="0"> <tr> <td>⑤ 構造的な不具合の原因と対応策</td> <td>⑥ 木材の腐朽と防霉</td> </tr> <tr> <td>⑦ 現場における検査手順</td> <td>⑧ 報告書作成法</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨ 床・壁・屋根、その他の不具合とその対応</td> </tr> </table> <p>【2年前期】</p> <table border="0"> <tr> <td>⑩ 建築病理学の必要性</td> <td>⑪ 床下環境について～防蟻対策</td> </tr> </table> <p>【2年後期】</p> <table border="0"> <tr> <td>⑫ 温熱環境の改善と対策</td> <td>⑬ 法規・制度関連</td> </tr> <tr> <td>⑭ 室内空気質の改善と対策</td> <td>⑮ 契約依頼者との契約上の注意</td> </tr> </table>							① 建物の長寿命化の必要性	② 建築病理学とは	③ 耐震調査の目的・内容とその手順	④ 各種検査機器と使用法	⑤ 構造的な不具合の原因と対応策	⑥ 木材の腐朽と防霉	⑦ 現場における検査手順	⑧ 報告書作成法	⑨ 床・壁・屋根、その他の不具合とその対応		⑩ 建築病理学の必要性	⑪ 床下環境について～防蟻対策	⑫ 温熱環境の改善と対策	⑬ 法規・制度関連	⑭ 室内空気質の改善と対策	⑮ 契約依頼者との契約上の注意
① 建物の長寿命化の必要性	② 建築病理学とは																						
③ 耐震調査の目的・内容とその手順	④ 各種検査機器と使用法																						
⑤ 構造的な不具合の原因と対応策	⑥ 木材の腐朽と防霉																						
⑦ 現場における検査手順	⑧ 報告書作成法																						
⑨ 床・壁・屋根、その他の不具合とその対応																							
⑩ 建築病理学の必要性	⑪ 床下環境について～防蟻対策																						
⑫ 温熱環境の改善と対策	⑬ 法規・制度関連																						
⑭ 室内空気質の改善と対策	⑮ 契約依頼者との契約上の注意																						
テキスト参考書	随時プリント配布																						
事前履修科目	なし（ただし、木造建築病理学実習と同時受講とする。）																						
評価方法	出席、試験、レポートなど																						
関連する資格																							
注意事項																							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築病理学実習		○ 小原勝彦 吉野安里 / 廣田桂子 / 辻充孝 / 津田格					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	適切な保存・改修方法を提案するために、既存建物の耐震性能、温熱性能、不具合や劣化などを調査診断する。						
概 要	実物件の調査診断をする。						
項 目	<p>実習の実施日は前もってそのつど発表する。実習の項目は次のとおりであるが、木造建築病理学の講義・演習において詳細を説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前調査 調査計画～詳細調査積算 2. 詳細調査 平面図作成調査、立面図作成調査、矩計図作成調査、各階伏図作成調査 基礎伏図作成調査、展開図作成調査 小屋裏調査、床下調査、地盤調査、温熱調査、常時微動測定 温熱測定、劣化調査、含水率調査、家歴調査、など 3. 「住まいの診断レポート」作成 構造性能診断、温熱環境診断、耐久性能診断、など 						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし（ただし、木造建築病理学と同時受講とする。）						
評価方法	調査参加回数、主担当回数nado						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木質構造力学・静定構造		○ 小原勝彦					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築構造の基礎となる静定構造力学について学ぶ。						
概 要	構造分野の初歩として、もっとも単純な構造の一つである単純梁、片持梁や静定トラス等について、作用する荷重やその反力及び各部に生じる応力度や変形等の基礎諸事項を学ぶ。						
項 目	<p>静定構造について、講義及び演習を行った上で理解を深める。また、木質構造で基本的な調査や構造設計を行う。</p> <p>【力学：講義・演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 力の定義、合成と分解、構造のモデル化、支持点と接合 安定と不安定、静定と不静定 静定構造の反力（1）釣り合い条件式 静定構造の反力（2）反力の算定 静定構造の応力（1）軸方向力、せん断力、曲げモーメント 静定構造の応力（2）応力の判定 応力度とひずみ度 フックの法則、応力度とひずみ度 断面の性質（1）断面1次モーメント、図心、断面2次モーメント、断面係数、断面極2次モーメント、断面2次半径、断面極2次半径、ヤング係数、せん断弾性係数、など 断面の性質（2）演習 静定トラスの応力（1）節点法、切断法、マトリックス構造解析法 静定トラスの応力（2）演習 マトリックス有限要素法解析（1）演習 <p>【設計：講義・演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 壁量計算 壁倍率、必要壁量、存在壁量、壁量充足率 側端充足率計算、偏心率計算 N値計算 接合部倍率 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木質構造力学・不静定構造		○ 小原勝彦					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築構造の基礎となる不静定構造力学について学ぶ。						
概 要	不静定骨組について作用する荷重やその反力及び各部に生じる応力度や変形等の基礎諸事項を学ぶ。座屈や振動の初歩について学ぶ。また、電算機を用いた解析及び構造模型製作などを通して構造について理解を深める。						
項 目	<p>不静定構造について、講義及び演習を行った上で理解を深める。また、基礎的な調査や構造設計を行う。</p> <p>【力学：講義・演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 弾性曲線法 たわみ、たわみ角、弾性曲線、曲率 2. モールの定理 3. カステリアーノの定理 4. 仮想仕事法 5. たわみ角法（1）解説 6. たわみ角法（2）演習 7. 固定モーメント法（1）解説 8. 固定モーメント法（2）演習 9. 座屈現象と座屈荷重 10. 建築振動に関する基本事項 <p>【設計：講義・演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 横架材の断面算定（1）解説 12. 横架材の断面算定（2）演習 13. 常時微動測定 14. 耐力壁の設計（せん断系、軸力系、曲げ系など） 15. 接合部の設計（釘、木ねじ、ボルト、ラグスクリュー、ドリフトピン、ジベルなど） 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	木質構造力学・静定構造						
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
建築構法		○ 小原勝彦					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築物を建てる（生産する）という工程がなければ、建築物は形成なされない。その建築生産の総合的なとらえ方を踏まえることを中心に学ぶ。						
概 要	建築物の主要構法として、鉄筋コンクリート造、鉄骨造や木造など、多種多様の構法がある。それら建築物の躯体及び各部の構法について、要求される機能や性能、部材や部品の構成、造り方や納まり、そして構造的性質及び特徴について学ぶ。地盤調査方法から、そのデータ処理についても学ぶ。						
項 目	<p>一般的な建築構法について、講義・演習及び実習を行った上で理解を深める。また、調査実習としての課題を行い、実際の建築物の構法について接してもらいたい。</p> <p>【講義・演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築構法の捉え方、建築の荷重及び外力 2. 各種建築構法（鉄筋コンクリート造、プレストレストコンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、組積造、木造） 3. 各部構法詳細（1 地業及び基礎） 4. 各部構法詳細（2 屋根） 5. 各部構法詳細（3 壁） 6. 各部構法詳細（4 床） 7. 各部構法詳細（5 階段） 8. 各部構法詳細（6 天井） 9. 各部構法詳細（7 開口部） 10. 各部構法詳細（8 建具） 11. 各種地盤調査方法（標準貫入試験、表面波探査、平板載荷試験 他） 12. スウェーデン式サウンディング試験（1 試験方法） 13. スウェーデン式サウンディング試験（2 試験の実施） 14. スウェーデン式サウンディング試験のデータ処理（1 試験データの処理方法） 15. スウェーデン式サウンディング試験のデータ処理（2 即時沈下量の推定） 16. スウェーデン式サウンディング試験のデータ処理（3 圧密沈下量の推定） 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席、試験、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の防火性能		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的							
概 要							
項 目	<p>【目的】2000年6月の改正建築基準法施行により、防災規定は建築基準法制定以来続いた仕様規定から性能規定に向けて大改正された。これにより、これまで、市街地では、モルタル塗り等で防火被覆をすることが前提とされてきた木造住宅についても、木材をあらわしにして使うなど、様々な技術開発の可能性が広がった。</p> <p>【内容】本講義では、この改正建築基準法の防火規定の内容や要求性能を十分に理解した上で、真壁造など、より木造らしい木造住宅を設計する手法を防火法令適合という観点から考える。さらに、防火材料及び防耐火部材の技術開発の手法や手続きを習得し、設計・施工実務者主導型の技術開発の可能性を一緒に考えていく。</p> <p>講義① 木造に関する法令改正の歴史 講義② 建築基準法がいう防火とは 講義③ 内装制限を考える～木材はどのように燃えるか 講義④ 内装制限を考える～不燃材料は本当に燃えないか 講義⑤ 木造住宅の防火を考える～真壁を防火的にする 講義⑥ 木造住宅の防火を考える～木あらわし軒裏・壁を防火的にする 講義⑦ 防火に関する技術開発の手法 講義⑧ 総括～火事に強い木造とは</p>						
テキスト参考書	火事場のサイエンス 長谷見雄二著 井上書院						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席およびレポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木材塗装の基礎		○ 久津輪雅 辻充孝 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP ■ 木造建築 ■ ものづくり						
目 的	木工や建築のためのさまざまな塗料についての知識と、塗装の基本的な技術を身に付ける。 オイル、漆、柿渋、蜜蝋などの自然塗料に加え、ガラス塗料、水性ウレタン塗						
概 要	塗装は、美観の向上と木材の保護の2つの目的で行われる。オイルや漆などは天然由来の塗料であり、環境に優しい製品として近年見直されている。一方、耐候性や耐水性が高く、環境にも配慮した塗料の開発も日進月歩で進んでいる。本科目では塗料メーカーや塗装の専門家による指導も交えながら学ぶ。						
項 目	1, 2 (6月8日PM) 木材塗装の目的と工程 (天然オイル、合成オイル、柿渋、漆、ガラス塗料、水性ウレタン塗料) 塗装実習 3, 4 (6月23日PM) 木材塗装の目的と工程 塗装実習続き 5~8 (7月5日終日) 水性ウレタン塗料、ガラス塗料など (塗料メーカー) 9~12 (8月30日終日) 柿渋 (里山景観マイスター養成講座と合同) 13, 14 (9月10日PM) 蜜蝋 15~20 (11月19日PM~20日終日) 漆 (非常勤講師：沢田欣也) 21, 22 (12月6日終日) 水性ウレタン塗料、ガラス塗料など (塗料メーカー)						
テキスト 参考書	随時テキスト配布 必須ではないが参考書として						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴 (サンダルは禁止)						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築環境		○ 廣田桂子 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	環境の重要項目である光、空気、熱、エネルギー、水、風の知見を設計にどう利用するか認識し、実際の設計に活用している事例から、より多くの可能性と、自分の設計に適した建築環境の要点を学ぶ事を目的とする。						
概 要	環境の重要項目である光、空気、熱、エネルギー、水、風の知見を設計にどう利用するか認識し、実際の設計に活用している事例から、より多くの可能性と、自分の設計に適した建築環境の要点を学ぶ事を目的とする。						
項 目	1. 木造建築環境の概論 2. 環境計測学と環境建築：空気とエネルギーの活用方法 3. 人間工学から見た木造建築環境：熱とエネルギーの活用方法 4. パーマカルチャー建築 5. 建築環境と空气中化学物質の及ぼす影響 6. 建築室外環境と風水計画：水、光と風の活用方法						
テキスト参考書	「設計のための建築環境学」日本建築学会 「環境科学計測学」原雅宏						
事前履修科目							
評価方法	出席、試験、レポート						
関連する資格	木造建築士2級建築士1級建築士						
注意事項	メジャー、スケッチ・ブック、テクニカル・ペン、クラッチ・ペンシル、トレーシング・ペーパー、カメラ、縮尺定規を持参の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
木の空間における人間工学		○ 廣田桂子 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	人間環境工学の知見から、木空間における人間工学の基本を学ぶ事を目的とする。 実測実習を通して、人間環境工学データの収集と分析方法を学び、データ活用						
概 要	建築において、住環境は温熱、光、空気、音、等の環境要因で表現されることが多い。しかし環境要因重視の設計は、生命維持器官の動きと必ずしも同調しているとは限らない。そこでヒューマンファクターに注目し、住まい手に優しい環境設計の基礎を深める。						
項 目	1. 人間—環境系：生理学と人間行動学 2. 体温調節と温熱環境 3. 視覚と光環境 4. 嗅覚と空気環境 5. 聴覚と音環境 6. バランス感覚と重力環境 7. チェック手法 8. 建築と人間工学						
テキスト 参考書	「人間—環境系デザイン」日本建築学会 「人間工学ガイド」福田忠彦						
事前履修科目							
評価方法	出席、試験、レポート						
関連する資格	木造建築士2級建築士1級建築士						
注意事項	メジャー、スケッチ・ブック、テクニカル・ペン、クラッチ・ペンシル、トレーシング・ペーパー、カメラ、縮尺定規を持参の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築CAD		○ 辻充孝					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	本講座ではCADの基本概念を理解し、基本的な操作を習得することで、建築図面の作図を行えることを目的とする。						
概 要	CADは熟練を要する手書き線に比べて初心者でも正確で均一な線を描くことができるが、使用する人間が設計の内容を理解していなければ、ただ線を描けるというだけである。そのため、トレースを基本に表現方法や製図手順を学習した上で、設計演習を行い建築の各部位を検討しながら製図を行う。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. CADシステムの概要と機能 2. CADの基本操作① 線分、線消去、変形、移動、複写、文字、寸法 3. 印刷(ペーパー空間でのレイアウト・印刷スタイル) 4. 画層管理(画層の設定・管理) 5. ブロックの利用 6. テンプレートの作成 7. 木造建築図面のトレース 8. S造、RC像建築図面のトレース 9. 設計した計画の製図 10. 各部位の断面構成の設計、製図 11. 各部の納まり検討(接合部詳細図) 12. 施工方法の設計、製図(施工図) 13. データの変換手法 14. プレゼン図面の作図①(イラストレーター等と連携) 15. 3次元モデルの活用 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の木拾い術		○ 辻充孝					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木造建築の構造の考え方について学習し、「木造建築」の伏図、木拾いができることを目的とする。						
概 要	木材の効率的な使用や木拾いの方法も理解する。検討した構造が的確で組みやすいか等も模型を作りながら検討する。						
項 目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木造建築の構造の基本的な考え方 2. 構造図の理解 3. 構造図（伏図）の作図① 4. 構造図（伏図）の作図② 5. 構造図（伏図）の作図③ 6. 構造図（軸組図）の作図④ 7. 構造図（軸組図）の作図⑤ 8. 構造図（軸組図）の作図⑥ 9. 木拾いの基本 10. 構造部材の木拾い術①（例題）木拾いから材積表へ 11. 構造部材の木拾い術②（実際のプラン） 12. 構造部材の木拾い術③（実際のプラン） 13. 軸模型の製作① 14. 軸模型の製作② 15. 軸模型の製作③ 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木質建材をつくる		○ 吉野安里 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	自力建設において設計、施工するにあたって、産出される地域材の特徴、性質、加工までに至る地域材の状況を理解することを目的とする。						
概 要	設計時に得るべき樹種、部材断面、部材長の制約、心材辺材の制約とその利用形態の概観を理解する。 状況に応じ、実際に自らが今後建築に使用する木材を自ら伐採、搬出、製材に接することで建築から山を見ることの重要性を認識し、建築物への愛着やその						
項 目	1. 自力建設にともなう構造部材の製材 2. 自力建設にともなう構造部材の乾燥 3. 自力建設にともなう構造部材の幅はぎ板材の製造 4. 墨付けと刻みへ向けて加工部材の調整(かんな掛け)						
テキスト 参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席						
関連する資格	なし						
注意事項	常時作業のできる服装、運動靴、場合に応じ長靴等						

科 目		担当者(○主担当)					
原木流通		○ 吉野安里 非常勤講師					
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input checked="" type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	原木流通の現状を知る						
概 要	原木市場、製品市場、その中間である製材工場の現状を知る。						
項 目	1. 戦後構築されてきた木材流通体系の現状 2. 2つの市場(原木市場と製品市場)とその中にある製材工場の役割 3. 製材業の大規模化がもたらす木材流通変革 4. 岐阜県が占める東海地域の木材産業との関係 市場見学(原木、市場) 2回程度						
テキスト 参考書	逐次資料配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席 レポート						
関連する資格	なし						
注意事項	見学時は安全な服装、運動靴、ヘルメット持参						

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築の総合デザイン演習		○ 辻充孝 小原勝彦 / 廣田桂子 / 吉野安里					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	専門性の高い個別の授業成果を、ある課題に対して、それぞれの専門分野の内容を活用しながら計画を行う。これにより、個々の科目が実際にどの段階で必要になり、デザインする段階で、どんな効果が得られるのかを習得する。						
概 要	1、2年合同、あるいは外部専門家と協働で行うことで、共同作業の利点や難しさ、短期間でまとめあげる力を養う。						
項 目	課題発表 敷地の現地調査 設計と条件の整理 基本設計 構造形式（木造、S造、RC造）の検討 壁量計算・熱損失計算等の性能評価 木材の利用提案 室内環境のデザイン プレゼンテーション 上記内容を1年時と2年時に行う。						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木造建築構造の展示の実践		○ 小原勝彦 辻充孝					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	120	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築では多くの場でプレゼンテーションすることが必要となる。建築実務の場ではいろいろな展示会があり、来場対象者に応じた企画力、資料作成能力、プレゼンテーション能力をはじめ、実践力が必要である。						
概 要	実際にプロが主催する展示会に学生が木造建築構造の展示を行う。行政、外郭団体、大学など教育機関や建築実務者などとの連携が不可欠となる。こういった連携において、実践的な場で取り組む。						
項 目	<p>木造建築構造に関する内容に係る展示会の視察を行う。木造建築構造に関する内容に係る展示会の企画や運営などを実施する。</p> <p>展示の視察例や実践例</p> <p>(1) 耐震博覧会（株式会社ナイス） (2) 建築総合展（株式会社中部経済新聞社） (3) ぎふ建築・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展（一般社団法人建築学会） (4) ぎふ住まいるコレクション（社団法人岐阜県建築士会） など。</p>						
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
山里に伝える ～聞き書き～		○ 原島幹典 廣田桂子 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	県内の山村地域を訪ね、「山里の聞き書き」活動を行う。聞き書き作品を作成し、発表会において話し手にお返しすることで、山里（そこに暮らす人々）の魅力や価値を地域の人たちに伝える。						
概 要	活動の結果として、地域の人自身が、山里の暮らしや自分の人生について、考え直してゆくプロセスに立ち会うことになる。「山里の聞き書き」の実践編。						
項 目	1. 講義 「山里の聞き書き」の方法 2. 山里訪問 （再聞き取り） 3. 聞き書き作品作り 4. 読み合わせ会 5. 加筆、修正 6. 発表会、交流会						
テキスト 参考書	山里の聞き書き （山里文化研究所編）						
事前履修科目	「山里に聞く」						
評価方法	出席、作品提出と発表						
関連する資格							
注意事項	I Cレコーダー等録音機器、デジタルカメラの持参推奨						

科 目		担当者(○主担当)					
基礎をつくる		○ 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	建築の基礎の設計を行い、施工する。設計では、構造計画、構造計算の他、伏図や詳細図、加工図なども作成する。建築の基礎のつくられかたを体得するために、自力建設建物の基礎工事を行う。作成された設計図に沿って						
概 要	基礎工事の過程を通して、そのつど美濃市周辺の職人さん達に指導を受ける。						
項 目	<p>【夏季集中実習・前半】 自力建設プロジェクトの基礎の設計および施工を実施する。</p> <p>【基礎の設計】</p> <ol style="list-style-type: none"> 敷地データおよび地盤調査データを読む 実習 構造重量拾い 解説・実習 基礎の構造区画 解説・実習 基礎の仮定断面 解説・実習 基礎配筋の算定 解説・実習 基礎伏図の作成 基礎配筋図の作成 鉄筋加工図の作成 地盤調査から基礎選定、基礎の構造計画 基礎の構造設計の総括 <p>【基礎の施工】</p> <ol style="list-style-type: none"> 測量 地盤地耐力測定 地鎮祭 丁張り 掘り方 配筋工事 型枠工事 コンクリート工事 水打ち 脱型 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席、レポートなど						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
墨付けと刻み加工		○ 吉野安里 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木造建築の部材のつくられかたを体得するために、自力建設建物の部材の加工を行う。自ら作成された設計図に沿って部材加工を進める。						
概 要	現在、大半の木工事は合理化のために機械化(プレカット化)されているが、ここではあえて、従来からの墨付けと簡易な加工機器を用いた人力加工を基本とする。 校外の専門技術者による指導のもと実施する。						
項 目	<p>【夏季集中実習・中半】</p> <p>自力建設プロジェクトの墨付けと刻み加工を実施する。 木取り、番付、墨付け、刻み 外部専門指導にて実施</p> <p>昨年事例 日程 8月 18日(月)～8月 26日(火) 7泊9日 日程 宿泊 有無については変更ある可能性あり 場所 昨年事例 東濃ひのきの家 (岐阜県中津川市 加子母)</p> <p>本年度の日程は別途要確認</p>						
テキスト 参考書	逐次資料配布 木造建築の木取りと墨付け 井上書院						
事前履修科目	建材をつくる						
評価方法	出席 取組姿勢						
関連する資格	なし						
注意事項	事前にスケジュールを把握し、エンジニア科大工入門 学生と宿等、工具の準備をする 常に作業のできる服装、運動靴						

科 目		担当者(○主担当)					
架構をつくる		○ 辻充孝 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木造建築の部材のつくられかたを体得することを目的とする。						
概 要	「墨付けと刻み加工」において加工された部材を現場で組み立てる「建て方」を行う。校外の専門職による指導のもと、共同作業により実施する。 上棟後の工事は、この後職人さんの指導のもと随時とり行う。						
項 目	【夏季集中実習】 計画書のプレゼン（専門職に対して） 材料手配、段取り 専門職（大工）との打ち合わせ 集中期間中（約2週間）の加工（道具直し、墨付け、刻み、仮組） 建て方の段取り、仮設足場の設定 上棟の段取り 上棟式						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・取組姿勢など						
関連する資格							
注意事項	常に作業のできる服装、運動靴、ヘルメット 常に安全を意識する						

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニケーション・ワークショップ		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	社会に何かを提案したり、誰かのために何かをつくったり、「自分のシゴト」をしたりしていくために必要な、相手と自分の気持ちを聴く力と表現する力を養います。						
概 要	1対1や、グループでのロールプレイの中で、主体となったり、観察する側となることで主観的、客観的に自分の発言や気持ち、その言葉に対する反応に気づくためのショートプログラムを3日間連続で行います。						
項 目	扱う内容の予定（その場の状況や反応に合わせて担当講師が展開していくため以下はあくまで予定です。） ○心と身体のストレッチ ○気持ちを聴く ○「きく」と「ききいれる」 ○気持ちを表現する ○自分の発言をチェックする ○様々なコミュニケーションのスタイル ○コミュニケーション内での気持ちの変化のプロセスの観察 ほか						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、授業態度から総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	1日目、2日目の授業終了後、共同で夕食を作って食べながら、1日のふりかえりや講師との個別の質疑応答の時間をつくります。（希望者のみ）						

科 目		担当者(○主担当)					
ものづくりと暮らしゼミ		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	180	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	ものづくりは、暮らしをつくることであり、人とモノの命を大切する心づくりでもある。学校生活という日常を大切に過ごしながら振り返り、木と暮らすライフスタイルを提案する力を養うことを目的とする。						
概 要	毎月1回の定例工房管理とゼミ。「作り→使い→直す(ブラッシュアップ)」モノの循環も2年間を通して体感することを目指す。また、県内外の地域をフォーカスし、歴史・文化・産業等の視点で暮らしを調査研究する。まとめとして木のライフスタイルを提案する展示会も開催する。						
項 目	0. 暮らしを整える ○工房管理(月1回) ○大掃除(年3回) 1. 知る ○文化・歴史を知る(東京) ○地域の暮らしを知る(中津川) 2. 創造する ○食を創造する(制作+食事会)(年3回) 3. 伝える ○伝えるワークショップ ○全体ゼミ(月1回) ○学内展示会(前期終了展) ○展示会(販売)						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート・展示のプレゼンテーション						
関連する資格							
注意事項	年1回の宿泊を伴う実習がある。						

科 目		担当者(○主担当)					
ものづくりと仕組みづくりゼミ		○ 和田賢治 松井勅尚 / 久津輪雅 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	ものづくりをこれからの社会の新しい「仕組みづくり」として取り組む先進事例の見学、外部講師による講義をとおして、新たなものづくりのあり方を考える。						
概 要	新しいプロジェクトの取り組み方(人の巻き込み方、情報の発信の仕方、資金調達方法)でこれまでにないものづくりとして支持を集めている例が増えてきている。そのような事例について、見学や講義を通して学び、自身の卒業後の仕事のあり方について考える。						
項 目	講義 ・ 先進事例に関わる方の講義 ナカジマウッドターニングスタジオ 中島信太郎 (予定) ・ 教員が取り組む活動紹介 見学 (予定) ・ 5月 TSUGI (福井) ・ 12月 エコプロダクツ展 (東京)						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席 / レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
感性を問う		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	感性（美意識）とは「時代の空気」のようなものであると考える。これを自ら疑い客観視することは難しい。この授業では、このことを問い直し、主体的に判断するためのきっかけを提供することを目的とする。						
概 要	旬の展覧会・展示会の見学や、デザイナー・研究者等ゲスト講師を招聘し、様々な切り口で価値観の多様性に触れ、自身の価値観を再構築する機会とする場を提供する。						
項 目	◎ガイダンス／「〇〇は、どこから来て・・・どこへ行くのか・・・」 ①美意識についてⅠ／身体尺 ②美意識についてⅡ／スギ ③美意識についてⅢ／木工家ウィーク見学 ④美意識についてⅣ／暮らしと家具の祭典見学 ⑤美意識についてⅤ／ギャラリーももぐさ見学						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
手工具		○ 久津輪雅					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木工の基本的な手工具の原理を理解するとともに、鉋（カンナ）と鑿（ノミ）の仕込みと研ぎを行い、使える状態にすること、また実際にそれらを用いて小物を制作することを目的とする。						
概 要	手工具の原理を理解して木を加工することは、木工の第一歩である。カンナやノミは、木製の台や柄や刃を調整する「仕込み」、刃を砥石で研磨して切れ刃をつける「研ぎ」を適切に行って初めて使えるようになる。これらの工具を用いて、まな板、箸、鍋敷き、箸箱の暮らしの道具4点を制作する。						
項 目	1~4 鉋の仕込みと研ぎ 5~10 まな板の制作 11~14 鑿の仕込みと研ぎ 15~26 鍋敷きの制作 27~34 箸箱の制作						
テキスト 参考書	「木工工作法」 「木工用機械」						
事前履修科目							
評価方法	出席、作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴（サンダルは禁止）						

科 目		担当者(○主担当)					
木のカタラー		○ 松井勅尚					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「木で形をつくる」ことを通して、木と自身との双方向(⇔)のやり取りの中に、人間と自然との大切な何かを体感すると同時に、「その木の形」の必然性を模索し、誰かのためのものづくりを模索する。						
概 要	食と道具の関係性についての講義や、木や竹の適材適所、身体の延長としての木工道具についての体験的理解を、木でつくることを通して習得することを目指す。特に、切り出し小刀等を使い、木を削り出し、3次元の立体感覚を体感することに重きを置く。						
項 目	1. ガイダンス ◎木の食の道具づくり1 (スプーン) ○食の道具とデザインについて ○適材適所について ○切り出し小刀・丸刀の使い方 プレゼンテーション ◎竹の食の道具づくり2 ○食について考える ○適材適所について プレゼンテーション						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・プレゼンテーション						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
木工機械		○ 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	基本となる木工機械の安全な扱い方、作業方法について学ぶ *ものづくり講座の機械を使用するほかの授業を履修したり、工房の機械を使						
概 要	木工を行う上で必要不可欠な、木工機械や電動工具の使用方法について基礎から学ぶ。機械加工に伴う危険について理解し、事故やけがを防ぐ安全な加工方法を学ぶ。木工品の制作を行うことにより反復作業を通して木工機械の扱い方を体で覚える						
項 目	木工機械 <ul style="list-style-type: none"> ・クロスカットソー ・バンドソー ・手押しかんな盤 ・自動かんな盤 ・昇降丸鋸盤（軸傾斜、テーブル傾斜） ・横切り軸傾斜丸鋸盤 ・ボール盤 ・ベルトサンダー ・超仕上げかんな盤 電動工具 <ul style="list-style-type: none"> ・電動ドリルドライバー ・インパクトドライバー ・トリマー 木工作業 <ul style="list-style-type: none"> ・レターケースの制作 						
テキスト参考書	木工用機械 / 木材加工系実技教科書 / 木工工作法 *いずれも雇用・能力開発機構						
事前履修科目							
評価方法	出席 / 制作物（前期展示会での作品展示）						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・動きやすく滑りにくい靴 ・袖や裾のしまった服 						

科 目		担当者(○主担当)					
電動工具		○ 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	使用頻度の高いトリマーやハンディルーターといった電動工具の使い方、および治具制作を学ぶ						
概 要	木工機械や木工で使用頻度の高いトリマーやハンディルーターといった電動工具の使い方や安全な加工に欠かせない治具の作り方・使い方を時計の制作を通して学ぶ。また一つの作品を作り上げるうえで基本となる工程の流れを理解し、作品作り全体の流れを通して学ぶ。						
項 目	壁掛け時計の制作を通して下記の内容を学ぶ 1. 木工機械、電動工具の使用法（ルーターマシン、ルーター、トリマー） 2. 木工機械の応用的な使用法 3. 治具の制作法						
テキスト 参考書	木工用機械 / 木材加工系実技教科書 / 木工工作法 *いずれも雇用・能力開発機構						
事前履修科目	C1-111 木工機械						
評価方法	出席 / 制作物（前期展示会での作品展示）						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴 ・袖や裾のしまった服						

科 目		担当者(○主担当)					
グリーンウッドワーク		○ 久津輪雅					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	グリーンウッドワークと呼ばれる、人力の道具で生の木を加工して小物や家具をつくる木工について、歴史や技術を学び、椅子を制作する。森と人をつなぐ手段、木工を楽しむ手段としてのグリーンウッドワークを理解する。						
概 要	丸太を割るところからすべて人力で椅子を1脚制作する。生木の特性を生かした加工方法や、曲げ木について学ぶ。 この実習は森林文化アカデミーと民間団体が共催するグリーンウッドワーク指導者養成講座として行われる。学生は補助スタッフとして参加者を手伝うとと						
項 目	1 講義 グリーンウッドワーク概論 2~6 削り馬の制作 7~10 椅子づくり講座準備 11~22 椅子づくり講座・前半 ・ 丸太からの木取り、貫の成形 ・ 脚の成形、曲げ木 ・ 背板の曲げ木 23~32 椅子づくり講座・後半 ・ ホゾ加工 ・ 脚、貫の仕上げ ・ 組み立て、座編み						
テキスト参考書	「はじめてのグリーンウッドワーク」グリーンウッドワーク研究所編						
事前履修科目	手工具木工機械						
評価方法	出席、椅子づくり講座へのスタッフとしての参加、作品提出						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・ 動きやすく滑りにくい靴（サンダルは禁止）						

科 目		担当者(○主担当)					
木工旋盤		○ 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	木材を回転させて加工する木工旋盤の基礎技術を習得する						
概 要	皿や椀などを制作する木工旋盤は、専門性の高い木工技術であると同時に、わずかな設備で足りることから、一般の人にも親しみやすい木工技術である。この実習では、フェイスワーク、センターワークという木工旋盤の2つの基本的な加工方法を習得し、それぞれの技術を用いた小物を制作する。						
項 目	1. 木工旋盤の世界の紹介 2. 木工旋盤の基礎知識 3. センターワーク（キノコ、コマ、お椀） 4. フェイスワーク（皿） 5. 注文の器づくり（課題）						
テキスト 参考書	資料配布						
事前履修科目							
評価方法	出席 50% / 作品提出 25% / レポート 25%						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴 ・袖や裾のしまった服						

科 目		担当者(○主担当)					
家具制作		○ 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	家具製作（テーブル）の作成に必要な技術の習得						
概 要	森林文化アカデミー学内で用いられるテーブルを製作する。テーブル制作に必要なほぞ組、天板の板矧ぎ、反り止めについての技術を実制作を通して学ぶ。						
項 目	講義： <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなテーブルについて ・ほぞ組 ・板矧ぎ ・反り止め 実習： <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査 ・デザインワーク ・材料の調達 ・天板部の制作 ・脚部の制作 ・塗装 						
テキスト 参考書	木工用機械 / 木材加工系実技教科書 / 木工工作法 *いずれも雇用・能力開発機構						
事前履修科目	手工具 / 木工機械 / 電動工具						
評価方法	出席 50% / 作品提出 25% / レポート 25%						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・動きやすく滑りにくい靴 ・袖や裾のしまった服 						

科 目		担当者(○主担当)					
木材塗装の基礎		○ 久津輪雅 辻充孝 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP ■ 木造建築 ■ ものづくり						
目 的	木工や建築のためのさまざまな塗料についての知識と、塗装の基本的な技術を身に付ける。 オイル、漆、柿渋、蜜蝋などの自然塗料に加え、ガラス塗料、水性ウレタン塗						
概 要	塗装は、美観の向上と木材の保護の2つの目的で行われる。オイルや漆などは天然由来の塗料であり、環境に優しい製品として近年見直されている。一方、耐候性や耐水性が高く、環境にも配慮した塗料の開発も日進月歩で進んでいる。本科目では塗料メーカーや塗装の専門家による指導も交えながら学ぶ。						
項 目	1, 2 (6月8日PM) 木材塗装の目的と工程 (天然オイル、合成オイル、柿渋、漆、ガラス塗料、水性ウレタン塗料) 塗装実習 3, 4 (6月23日PM) 木材塗装の目的と工程 塗装実習続き 5~8 (7月5日終日) 水性ウレタン塗料、ガラス塗料など (塗料メーカー) 9~12 (8月30日終日) 柿渋 (里山景観マイスター養成講座と合同) 13, 14 (9月10日PM) 蜜蝋 15~20 (11月19日PM~20日終日) 漆 (非常勤講師：沢田欣也) 21, 22 (12月6日終日) 水性ウレタン塗料、ガラス塗料など (塗料メーカー)						
テキスト 参考書	随時テキスト配布 必須ではないが参考書として						
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴 (サンダルは禁止)						

科 目		担当者(○主担当)					
木工の材料学		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	家具カトラリー等室内環境で木を使う場合の木材の物理的科学的性質を学ぶ。同時に、県内の様々な見学地を設定し、現場から学び取ることを目的とする。						
概 要	講義では、木材の性質・物性をものづくりの技術と関連付けて講義する。実習では、樹が倒れるところを見学することから始め、岐阜の森林とその利用状況を知る。実務的な力をつけるために、材料の現場見学を行い、また、いろいろな仕入れ先の得意分野を知る。						
項 目	(講義) 1. 木の構造の基本 2. 木材の同定 (応用) 3. 水分と木材の反応 4. 木材の乾燥 5. 木材と強度 6. 心材化と内部応力 (実習) 予定 7. 仕入れ先めぐり (金山チップセンター・桜井銘木) 8. 広葉樹二次林の天然林施業と広葉樹の伐採現場見学 (白鳥集中) 製材、栈積み、天然乾燥 9. 針葉樹人工林の施業と製材 (山共) 10. 川上 (高山) の市場見学、製材、人工乾燥の見学 (カネモク・西野製材) 11. 川下 (各務原) の市場見学 (岐阜木材団地) 12. エゴノキ採取						
テキスト参考書	木工材料 (雇用問題研究会)						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
ものづくりCAD		○ 辻充孝					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	本講座では作図を通してCADの基本概念を理解し、操作を習得することを目的とする。						
概 要	CADの操作をトレースを通して習得し、自ら作成した作品、或いは製作予定のイメージを作図する。						
項 目	<p>ものをつくる上で図面を描くことにはどんな意味があるだろうか。製作に入る前に大きさや木取り、接合部などの納まりのチェックをするため、他人にプレゼンテーションするため、或いは作った作品を資産として残すことなど様々考えられる。或いは、データベースとして図面や素材・仕上げなどを残すことによって、過去に作った作品(1品もの)を商品(数量のあるもの)として改良することも容易になる。</p> <p>【基本操作】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JW_CADのダウンロードとインストールとCADの特徴 2. CADの基本操作① 線分と消去 3. CADの基本操作② 移動と複写 4. CADの基本操作③ 寸法とパラメトリック変形 5. CADの概念 ファイルや画層の考え方 6. 参考図面のトレース 7. 簡単な家具図面のトレース① ベンチ 8. 簡単な家具図面のトレース② ベンチ 9. 簡単な家具図面のトレース③ テーブル 10. 簡単な家具図面のトレース④ テーブル 11. 有名家具図面のトレース① 12. 有名家具図面のトレース② <p>【応用操作】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 作品実測による作図① 14. 作品実測による作図② 15. 作品実測による作図③ 						
テキスト参考書	随時プリント配布						
事前履修科目							
評価方法	出席・課題状況など						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
地域材のクラフト開発1		○ 松井勅尚					
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	地域材を如何に活用し、日本の森を守るための木づかいを普及するか？小径木や未利用材等も視野に入れた小物づくりを通して、模索することを目的とする。						
概 要	学内の様々な機会における記念品開発を実習の機会とする。今までの学びを活かし、リサーチ～デザイン～制作等の流れを木の小物づくりを通して体感することを目指す。						
項 目	1. ガイダンス（課題出し） 2. リサーチ 3. 試作プレゼン 4～13. 本制作 14・15. プレゼンテーション						
テキスト 参考書							
事前履修科目	木のカトラリー・木工機械						
評価方法	作品のプレゼンテーション・レポート						
関連する資格							
注意事項	野外での調査や、工房で機械を使用した実習を行うので、軽快な、また安全で作業しやすい服を着用の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
木育講座の基礎		○ 松井勅尚					
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	45	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	「木育」とは、すべての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」 取り組みである。この授業では、木でつくることが目的ではなく、人と木や森との関わりを主体的に考えられる人づくりの基礎を学ぶことを目的とする。						
概 要	アカデミー生涯教育や、みの木育寺子屋等を実践の場とし、木と人との関係を問い直す「木育プログラム」の企画～講座実施までをスタッフとして実習し、木育講座を体験的に学ぶ。大人を対象とした講座と家族を対象とした講座を体験する場を提供する。						
項 目	1～4. ガイダンス（木育概論、木育プログラムの企画と運営） 5～8. 木と人に向かうペンダントづくり実習 9～16. 講座準備 17～30. 生涯教育講座「木と人に向かうペンダントづくり」スタッフ実習 31～45. 親子木育講座「みの木育寺子屋」スタッフ体験						
テキスト 参考書	はじめての木育（黎明書房）						
事前履修科目							
評価方法	出席・レポート						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
教材開発		○ 松井勅尚					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	教材とは、育みを生むための道具であり、独りよがりであってはならない。この授業は、「地域の想いを如何に教材として形にするか？」を木でつくることを通して学ぶことを目的とする。						
概 要	特色ある県内各地域をフィールドとして、自然、歴史、伝統、文化等を知る機会を設定し、それを解釈し、教材開発を体験する。聞き取り～教材開発～プレゼンテーションの一連の流れを体験する実習である。						
項 目	1～2 ガイダンス（教材について） 3～4 現地聞き取り 5～8 プレゼンテーション1 9～14 制作 15～16 現地プレゼンテーション2						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・作品のプレゼンテーション						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
商品化と教材化		○ 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治 / 非常勤講師					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	60	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	1年間のまとめとなる制作である。学んだことを統合した質の高い作品が要求される。商品化、または、教材化という視点を取り入れ、実社会を意識したものづくりをすることを目的とする。						
概 要	デザインについての講義からはじめ、想定クライアントへの聞き取り、調査研究を繰り返し、商品（教材）を開発する。販売の現場も設定し、コストを意識した実践的な授業である。また、少量生産の制作を行うことで、一品生産とは違ったノウハウを習得する機会とする。						
項 目	1. ガイダンス 2. デザイン講義 3. 想定クライアントへの聞き取り 4. デザインゼミⅠ 5. デザインゼミⅡ 6. デザインゼミⅢ 7. プレゼンⅠ 8. 原価計算 9. 試作プレゼン（制作物の決定） 10. 制作の段取り準備 11～28、少量生産による制作 29. 検品 30. 販売実習						
テキスト 参考書							
事前履修科目	C1-109手工具～123地域材のクラフト開発2						
評価方法	作品のプレゼンテーション報告書						
関連する資格							
注意事項	野外での調査や、工房で機械を使用した実習を行うので、軽快な、また安全で作業しやすい服を着用の事。						

科 目		担当者(○主担当)					
地域材のクラフト開発2		○ 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	1・2年通年	時間数	90	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	オリジナルグッズの開発、制作を通して、地域材の生かし方、地域性を考慮したデザインなどを学ぶ。						
概 要	特定の施設のオリジナルグッズを開発し、制作を行う。デザインワーク（2年生）では、素材、伝統、技術、人など様々な側面から地域、施設の調査を行い、地域性を生かしたグッズの提案をする。また量産（1、2年合同）では、商品レベルの確保した制作の実践を行う。						
項 目	1. ニーズ調査（4月～6月） 2. 地域資源調査（4月～6月） 3. 試作品開発（5月～6月） 4. プレゼンテーション（7月） 5. 製作準備・治具制作（7月） 6. 製作（9月） 7. 納品（9月） *1年生は、6. 制作のみ参加 *制作時は、2年生はリーダーとして1年生を指揮する						
テキスト参考書	木工用機械 / 木材加工系実技教科書 / 木工工作法 *いずれも雇用・能力開発機構						
事前履修科目	手工具 / 木工機械 / 電動工具						
評価方法	出席 50% / 作品提出 25% / レポート 25%						
関連する資格							
注意事項	作業しやすく、危険のない服装を各自準備する。 ・動きやすく滑りにくい靴 ・袖や裾のしまった服						

科 目		担当者(○主担当)					
伝統工芸の見学		○ 久津輪雅					
授業方法	講義・実習	開講時期	1・2年通年	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input type="checkbox"/> 林業再生 <input type="checkbox"/> 山村づくり <input type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	伝統工芸の職人の仕事を訪問して話を聞いたり作業風景を見学したりすることで、伝統工芸の価値を再発見し、技術の継承に関心を深めることを目的とする。						
概 要	「伝統工芸の見学」では、岐阜和傘、岐阜提灯、美濃和紙、飛騨春慶、竹細工、和船など岐阜県を中心とする伝統工芸の中からいくつかを選び、訪問する。						
項 目	1, 2 概論 岐阜県の伝統工芸について 3~8 仕事場見学						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項							

科 目		担当者(○主担当)					
救急法講習		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	日常生活のみならず、アカデミーが網羅する全ての現場において危険はすぐ隣り合わせにあり、中には特殊な状況下のものも多く含まれます。一社会人としてそれらに対して積極的に対応できるよう基本技術を学びます。						
概 要	基本的な救急法講習に加え、林業、ものづくり、建築、山村づくり、環境教育、それぞれの現場で起きやすい特殊な状況下での対応方法を、知識や技術を吸収する日と、忘れかかった頃にシュミレーション状況下でチームで対応してもらう日との2日間で体験的に技術や考え方を習得してもらいます。						
項 目	<p>基本的に以下の項目に触れる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本的な心構え（救急法とは） <input type="checkbox"/> 心肺蘇生 <input type="checkbox"/> 止血法 <input type="checkbox"/> やけど <input type="checkbox"/> 搬送法 <input type="checkbox"/> 日射病・熱射病 <input type="checkbox"/> パニック・過呼吸 <input type="checkbox"/> 安全体位 <input type="checkbox"/> 各種症状 <input type="checkbox"/> 危険な生物 <input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> 連絡方法 <input type="checkbox"/> 身近な道具を使った技術 <input type="checkbox"/> シュミレーション・トレーニング ほか 						
テキスト参考書	「救急法ハンドブック」を受講時に購入してもらいます（100円程度）						
事前履修科目							
評価方法	出席や授業態度など総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	当日は動きやすい服装で来てください。 また、テキスト代として100円程度を当日持参してください。						

科 目		担当者(○主担当)					
コミュニケーション・ワークショップ		○ 萩原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	30	区分	選択
対象コース等	<input type="checkbox"/> En共通 <input type="checkbox"/> En林業 <input type="checkbox"/> En林産業 <input type="checkbox"/> Cr共通 <input checked="" type="checkbox"/> 林業再生 <input checked="" type="checkbox"/> 山村づくり <input checked="" type="checkbox"/> IP <input checked="" type="checkbox"/> 木造建築 <input checked="" type="checkbox"/> ものづくり						
目 的	社会に何かを提案したり、誰かのために何かをつくったり、「自分のシゴト」をしたりしていくために必要な、相手と自分の気持ちを聴く力と表現する力を養います。						
概 要	1対1や、グループでのロールプレイの中で、主体となったり、観察する側となることで主観的、客観的に自分の発言や気持ち、その言葉に対する反応に気づくためのショートプログラムを3日間連続で行います。						
項 目	扱う内容の予定（その場の状況や反応に合わせて担当講師が展開していくため以下はあくまで予定です。） ○心と身体のストレッチ ○気持ちを聴く ○「きく」と「ききいれる」 ○気持ちを表現する ○自分の発言をチェックする ○様々なコミュニケーションのスタイル ○コミュニケーション内での気持ちの変化のプロセスの観察 ほか						
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、授業態度から総合的に評価します。						
関連する資格							
注意事項	1日目、2日目の授業終了後、共同で夕食を作って食べながら、1日のふりかえりや講師との個別の質疑応答の時間をつくります。（希望者のみ）						